

東京音樂學校内 日本教育音樂協會編纂

新尋常小學唱歌

第一學年用
第二學年用
第三學年用
第四學年用
第五學年用
第六學年用

定價各冊金拾貳錢

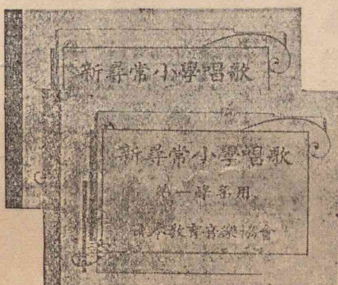
送料各二錢

新省令に適合した
唯一の唱歌集!!

文部省

檢定済

昭和七年一月十四日



新時代の兒童生活に即したる新しい唱歌集!

作歌作曲には現代一流大家の全部を網羅!

各卷全十五曲何れも特別委員會の一粒選り!

新鮮にして重厚教育的にして然も藝術的!

新尋常小學唱歌伴奏及解説

第一學年用
第二學年用
第三學年用

既刊

第四學年用
第五學年用
第六學年用

定價各冊金六拾錢

送料各六錢

エホンシヤウカ ハルノマキ

定價
金參拾五錢
送料貳錢

發賣所

東京市神田區仲藏樂町三〇番地

音樂教育書出版協會

電話九段(33)二一八七・三一九一
番
振替東京六四七七〇番

(新幼稚園唱歌)

軍用飛行機献金の儀

拜啓 時下益々御清榮慶賀の至りに存じます。

さて此度時局に鑑み愛國奉公の精神を鼓吹し、併せて國防思想の發達を期する一端として、本會に於て全國小學校兒童より一人につき金一錢以上同教員より十錢以上を集めて陸海軍省に對し軍用飛行機を獻納する議起り、全國聯合教育會常置委員會の賛成を得ましたので、全國聯合小學校教員會と協同の下に、いよいよこれを決行する事に決定致しましたから右御承認を願ひます、猶印刷物出來次第御手許まで御送り申し上げますから、その節は何分の御盡力を仰ぎたく御願ひ申し上げます。

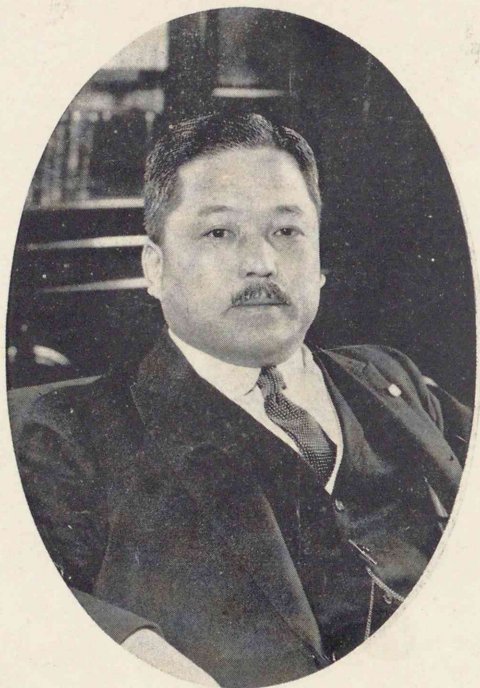
敬具

二月二十日

全國聯合教育會

以上に依り當教育會はその議に賛し、印刷物着次第適宜の方法手段により、御相談仕るべく、豫め急ぎ御諒諾を得ておくことに致します。

神奈川縣教育會



新 總 裁

新知事遠藤柳作閣下を、本縣にお迎へ致すと共に、縣教育會總裁として仰ぎ得ましたことは、本會の最も榮譽とする所で御座います。閣下知縣、日未だ猶淺くはありますが、誠に豁達安詳、直截簡明にして、徒に繁文縟禮に泥まれざるの風格を拜します。

如今、内外多難、生活脅威に感じやすき時、縣治の統帥として磊々落落閣下の如きを仰ぎ得た縣民の怡悅推して知るべきであります。

然り而して閣下の慧敏なる必ずや縣教育の是正を洞察し、施政の根本義を教育に樹立し、以つて庶政の發展に邁進せらるゝとを信じて疑はざるものであります。茲に六千會員を代表し、無辭を陳し愼んで推戴の辭と致します。

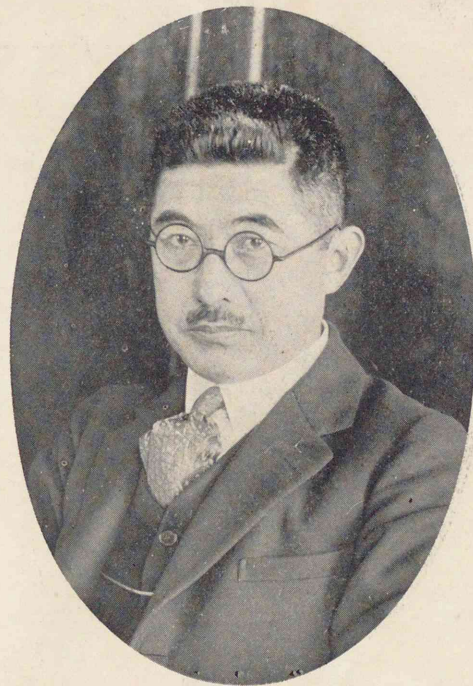
新會長

今回、新學務部長田島義士殿をお迎へし、茲に教育會長並互助會長としての吾々の懇望に對し、幸に御快諾をお與へ下さいましたことは、役員一同の感謝措かざる所でありまして、更に全縣六千會員に御紹介申上げる歡喜と光榮とを任ふ者であります。

田島會長は外、溫容和貌、甚だ親しみ易く、内、沈毅明斷、甚だ侵しかたく、而も落々たる態度は、明鏡止水に似て、崇敬禁じ得ざる感がいたします。

田島會長は前山縣知事、村上課長と郷關を同じうせられ、加之舊藩の門地低からざるやに聞いてをります。が由來中國武士の本領たる、自家信念の前には、一路邁進、果敢決行の疎腕をしめさることでありませう。

然れどその智や固に聰明であり、その情や固に濃稠である。吾等會員がその麾下に於いて、その旌麾のさしまねく所、各々十善を盡すに於いて精進し、尊意に副ふべく天地神明に誓ふものであります。慎んで歡迎の辭に代へます。



卷頭言

○昨冬の慌しい政變來に、府尹屬僚、悠忽として悉く所を異にし、爲めに經濟界は變調を來たし、政治界は旋風をまき起し、六拾議會は遂に解散となつた。何ぞそれ蒼皇を極めたることや。

復しても逐鹿場裡の熱狂、吾人亦一興を禁じ得ざるも、恨むらくは舜を歷山に發すの遠かるべきを奈何にせん。

「榮枯開落、もと表裏、

無常迅速、那邊よりか來する。

源平藤橘これ一點鐘

若かず、枯華微笑の値に。

秋風一過、萬物萎落して、

天地更に清明を加へんには。」

○白頭翁原敬は豪蕩であつた。獅子王濱口雄幸は剛直であつた。共に刺客の兇刃に斃る。政變が齎す目前の悲惨事は、實に急激なる浮沈興亡の跡である。徒らに謂ふをやめよ、單に權勢の犠牲のみにあらず。

○是を教育界に比す、彼の無常迅速なるに、此は百年一日の安きに在る。然も彼には佛のクレマンソー、英のロイド、ジョージ、我が犬養毅、高橋是清の如き、老齡古稀を起えて揚悠王座を占むるもの多きに、我は齡知命に満たざる、早くも老耄なすなき者多きは奈何。

○之が若柳の素因たる、伸び得ざると床下の若竹の之れの如く、日蔭蔓の養ひ薄きにも似たるか。但しは小廉曲謹、うける刺戟の恒に小さいため、その氣魄の大を缺けるにあるか。

○然れども曠職無爲、徒らに長きを欲するものにあらず、要は憂國仲々の至情の旺盛なると、その氣魄の雄大なるにある。吾人教育者たるもの、今哉世界的に自憤自啓すべき秋にあらざるなきか。

(Y 生)

前總裁山縣治郎閣下を送る

Y S 生

神奈川縣知事にして縣教育會總裁であつた山縣治郎閣下は、昨冬遼の政變によつて止むなく休職となられたことは實に縣民の不幸たるのみならず、良總裁を失ふに至りし吾々六千有餘の會員の齊しく痛惜に堪えない處であります。

抑も閣下知縣の當初、具に吾等に諭えて言はく「凡そ官吏は陛下の官吏でこそあれ、政黨の官吏たるべき者にあらず」とその官職を説くや極めて妥當公正であつた。されば閣下の縣政を處する秉公持平一黨一派に偏せず、陛下の善き官吏として陛下の赤子たる百六十萬縣民の利害休戚に治政の根柢をおかられたのであります。

彼の湘南歩道開通の如き、湘南縣營水道の如き財政整理と御料地御下賜の如き、孰れか縣民の幸福致富にあらずなき、稱して閣下の三大功績とす。寔に所以あるかなであります。

閣下は天資明敏達識、常に抱懷さるゝ所、理想極めて深遠博大でありました。されば吏僚を率ゐては先見獨創的であり、議會を操縦しては寧ろ指導啓發的でありました。然り而して緊縮政治の治下に於いてすら、治績の大なる猶此の如し閣下たる者、寔に良二千石たりと言はざるを得ません。

閣下は長藩の出して近くは伊藤博文山縣有朋を追蹤せる所謂中國武士である。元龜天正以降中國武士を評するに「中國の律義者」を以てせしとか、その律義こそ毛利の家憲であり、藩士の風格でありました。吾人はこれを高杉晋作にみ、これを吉田松陰にみるのであります。吾が山縣閣下がその事務に重厚なりしも、その志向に獨斷專行の嫌なきにあらざりしも、長談堂々、自ら論陣の矢面に立つて敢えてひるまざりし所以の者も所謂律義者たりしが故である。閣下の豪語「陛下の官吏にして政黨の官吏にあらず」と深く味ひ來れば妙趣津津たるものがある。閣下請ふ自愛せられよ。鵬の將に北海に移らんとする、且らくその翼を休焉また可ならずや。

前會長九鬼三郎氏を送る

前教育會長九鬼三郎氏が、昨冬群馬縣内務部長として榮轉せられたことは、眞に慶賀に堪えない次第である。君は全縣教育の首腦者としては、善く吏僚を指導して、教育行政刷新の衝に當り、又よく諸般教育の進捗を督勵し、教育會長としては各府縣並郡市教育會との連絡統制を保ちて、常に教育者の志氣の旺盛ならんことに努め教員互助會長としては、多年紛亂せし内政の秩序回復に猛進せられしなど、その功績實に枚舉に遑あらずと云ふべきであります。

君は華胄名門の出なれば、最も家憲をごそかなる處莊重儀禮に長じ、恒に謙抑の態度を失はれなかつた。殿様氣質の處はありしが、恩情甚だ掬すべき芳醇なる人情美の所有者であつた。

その長身瘦軀にして貴公子の如き端麗なる容姿は、一見人をして或種の懷しみを感ぜしむる者があつたが、就中君の令室の本縣に縁の深きと、至孝なる君として鎌倉は先考哀別の娑羅樹林であることから、君自らの墳墓の地として一層本縣に憧憬を有つてをらるゝことを吾人は疑はない。この意味に於て、吾人も亦君を愛慕すること深く措かざるものがある。茲に多年盡されたる君の功勞を感謝すると共に、君が榮轉の祖道のいやか上に盛なるを歡ぶ。

君未だ年齒、少壯、今後愈々顯職に果進せられ、復びこの舊縁の地に君の訪れを待つこと切である。此に君の前途を祝福し、乃ち腰折二首を贈して

惜しむぞよ心のまこと赤城なるてる紅葉ばのもえたつかごと。

榛名ちも赤城もはれて天のはらよごとはしのぶ月殿かまろ。

就任挨拶

田 島 義 士

今般本縣ニ轉任ヲ命セラレ又本會ノ役員各位ノ御推舉ニヨリ本會々長ノ榮職ニ就ク事トナリマシタノハ誠ニ光榮ノ至リニ堪ヘマセン。本縣ハ帝都ニ最モ近ク殊ニ皇室ニ御關係深キ葉山ノ地ヲ初メ東洋ノ大國際都市タル横濱ヲ中心トシ或ハ工業都市ノ川崎市或ハ帝都防備ノ第一線ニアル横須賀軍港及東京灣要塞或ハ風光明媚ニシテ關東五百萬人ノ保養地タル湘南函嶺ノ地ヲ有スル一方、純農村タル秦野、厚木、橋本地方アリ。殊ニ史蹟ニ富ム鎌倉モアル關係上人ノ出入モ甚タ多ク從テ思想問題ノ如キモ相當注意ヲ要スルト共ニ一方經濟問題ニツキテモ殊ニ關東大震災ノ後ヲ承ケテ居ル今日相當考慮ヲ要スル次第アルト存シマス。殊ニ初等教育ニ於テハ格別ノ注意ヲ要スル事ト存シマス即チ其ノ地方地方ノ郷土史ヲ充分研究ノ上其ノ還境ニヨリ土地ニ順應シタ教育ヲナス様ニ心掛ケネバナラヌト存シマス。次ニ兒童各個ノ個性ヲ深ク研究考察シテ所謂熱ト愛トヲ以テ教ヘ導ク様ニ御願致シタイト思ヒマス。尙殊ニ中等教育機關ニ委ネ得サル多數ノ小學校卒業者ニ對シテハ事情ノ許ス限り所謂卒業生指導ノ意味ニ於テ充分ニ指導ヲ御願シテ立派ナ縣民即チ國民ノ養成ニ努メル様ニ御願致シ度ト存シマス。

斯クシテ歴史アル我カ武相二州ノ地ヲシテ所謂畫一的教育ノ域ヲ脱シテ地方化シ且實際化シタル教育トシテ一層明ク一層元氣アル様ニ、相互ニ努メタイト存シマス。茲ニ會長就任ニ當リ所感ノ一端ヲ申シ述ヘテ御挨拶ト致シタ次第デアリマス。

小中學校長各位にお願

教育會言論の機關として、社會指導機關として、吾人教育者の意思發表機關として、將又精神的統制機關としての雜誌、「神奈川縣教育」に就いては、毎回理事會の話題に上るのでありますが、現在の如き貧弱なる發行部數では精神的方面からみて何としても心細さを覺ゆるのであります。少くとも一校二、三部宛は配本されて然るべきと思ふのであります。中郡の如きは、前々から各校二部づゝ配本されてあつて甚だ感謝する次第であります。是を實際に考へてみまするにお互が眞に縣教育の舞臺にたつて鼓旗堂々の叫をあげんにはこの種の言論機關に對し、今日の如き無愛想な無熱の状態であつて教育者の意氣充溢とは謂へるでありませうか。

試みに本縣教育者が、個人として縣教育會に如何程の義務額を擔つてゐるかを計較してみますと、驚く勿れ、一人月額僅に三錢弱なりと云ふ。府、縣教育會の存在が現在必要視せられてある以上は、又その使命の達成と之が發展維持とはその縣教育者の熱と力とに憑るべきは謂ふも愚かでありませう。

今や縣教育會の改造論に伴ひ、言論機關の編輯においても着々として新機軸を表はし、教育者の大同團

結の輿論をかゝげて思想界の木鐸たる任務を果たしむべきであり、一面混濁せる社會の淨化槽として單に教堂の議論たるに止めず、須らく街頭に獅子吼すべきでありませう。

官界人も宜しく吾人の説に聴くべく、財界人も吾人の言に聴くべく政界人も亦吾人に傾聴すべくあらゆる社會階級人をして同情を以つて吾人にきかんとする趨勢に到達することに於て、徹上徹下、吾人教育者の天職を完うする者と謂ふべきである。

かくて編輯改造に先きたちて、校長各位に願ひたきは

- 1 本誌を職員全部に紹介されたきことである。
- 2 本誌への寄稿を勸奨されたきことである。
- 3 本誌をかりて小學中學相互の連絡に利用されたきことである。
- 4 本誌によりて縣下教員の精神的統制を企圖されたきことである。
- 5 本誌によりて上は本省より下は官市廳當局への意思の疎通の途を開くべきことである。

駿々として推移する複雑なる現代世相に處するに、郡市教育會特に、府縣教育會が如何の方面に密林開拓の斧鉞を下すべきかは、お互に考慮研究すべき問題である。

其他教員會と云ひ、校長會と云ひ、互助會と云ひ、各々その本然の使命を有してをるとすれば、そこに各々の活躍を自由ならしむることは、人類幸福の常道であるやうに考へ、一段の御努力を懇望する次第であります。



本誌發展と 講讀者勸誘

今茲昭和七年の新春を迎へた

談 論 機 關

本誌は、劃期的に新生命と握手すべく燃え立つ希望を以つて、新天地にふさはしき新裝に輝きある新文化を展望すべく潑瀾たる清新の氣の中に生れ出ようとしてゐます、まづ第一に談論機關としての完全なる本誌の使命を果たすことあります。

明治、大正と過ぎて、昭和もはや七年を迎へた今日、吾人教育界としても、教育は勿論、思想に於いてもそこに大いなる開發があり、推移がある筈です、少なくとも昭和の吾人は「自覺ある天民」であるに相違ありません。國家的に世界的に、人類的に民族的に。

されば男女を論せず、老若を問はず、何人と雖も必ず一識はあるべき筈であります、さうした相互の思想が熾に本誌上に發表されることによりて、他を啓發し、己を擴充して、こゝにはじめて談論機關として意義あらしめることゝ考へます。

郷土中 心講座

吾人は現時、郷土教育の聲を餘りに屢々聞かざるゝことあります、吾々はたしかに理想に追蹤するに忠實すぎた、——現實に盲に——理想を紙の中にのみあせり求めた——書本主義の教育へと——空想、迷想、陷穽。

そこにベストロツチのルネッサンの叫、郷土の宗教、郷土の藝術、郷土の經濟、郷土の政治、郷土の商業、それらが徹底的に兒童の頭腦に理解されてゐるであらうかと。

吾等教育實際家は、高遠な學說、學理、原則などいふことより、先づその郷土に於けるそれらの運營の實際の中にそれらを發見せねばならぬことは、今更ぬを要しません。

そこで郷土内のこれ等につきそれらの専門家の説話に尋ねて活きたる教材資料を把握することにしたものであります。

誌 上 俳句會

お互は忙しい事を歓迎する、からとて弓弦を斷たない程のゆるみはあつて欲しい者である酒を飲むには女がいる、煙草を喫へば頭がやめる、稿の財布をからにしたくも柄でない、その補ひとなるなら俳句趣味は、純で、平易で、無慾で、その超越した處に、宗教あり、哲理あり、藝術あつて、宇宙自然の妙理に徹すれば、萬象一如、俳詩こそ多忙で、無智で、無邪氣な吾々貧乏人には、うつてつけの、それがまた修養道であり、純眞な娛樂でもある、これ句會を設けたそもくの理由である。一燈宗匠は、斯界の長老、帝大出の法學士、頗る文學に興味造詣が深い、一寸同氏に失禮して素肌で紹介して置く、たくさんに駄句、名句をおよせ下さい。

質 疑 應 答 欄

お役所の事務でも、互助會、教育會に關係する事でも、分らないことは質問をよせて下さい、時には人事に關すること、自個の出處進退に迷ひ、しかも役所むきに相談しにくいことでも、内密に談合に應じてみたい、事の次第によつて自己を犠牲にする覺悟だけはも

ちあわせてゐる。學術研究に關することは、それらの専門家の意見をきいてお答へする勞を厭はない。回答は誌上、事柄によつては私信です。

人 材 紹 介

本縣では縣下一般の教育界をはじめ、各社會に亘りて知名な人物を澤山にもつ、それらの人々の卓見抱負なり、人柄なりを、誌上だけでも承知してゐることは、吾らの強味であり好指鍼でもある、固より多士濟々たる教育界に於いては、各自の獨自性の尊嚴を認識して自ら進んで強く本誌上に發揮せられよ、而して各自の存在を力強く確認せしめられよ、吾人はこれを決して少しも自己宣傳などとは思はないのである。

讀 者 勸 誘

もある。

本誌は現に講讀者數五百餘であるが發行部數千となれば代價も安くなる筈、始めから毫も利潤を目的とせずに投費する限りは、うんと講讀者を多くすることは意義深いことである。或る府縣教育會の如きは教聞型旬刊として、時事を論し、報道の迅速をかねた進んだ處

吾等の大神奈川縣、須らくその規模を大いにし、更始一新の時勢に順應すべくたなければならぬ。冀くは現本誌愛讀者諸君は言ふ迄もなく、常に縣教育に期待と同情とを寄せらるゝ各位は、互に競つて愛讀者の勸誘に一臂の勞を與へられんことを切望いたします。

國を愛する者は縣を愛す。縣を愛するものにして能くその郷土を愛するを知る。

地久節設定の念願

理事 森 丑 太 郎

地久節の設定は私の多年の念願である。毎年その佳き日に當つて私は小學校に於ても一定の儀式を舉行して、皇后陛下の坤徳を仰ぎ奉らしむるやうにして居るが、希くはこれを公に御設定になる事を神かけて念願して居るのである。

私は昭和四年の全國高等女學校長協會の總會に「皇后陛下の御誕辰を四大節同様とせられん事を其筋に建議するの件」を提案したが、いろ／＼の都合から議題として之をはかる事はやめとなつた。更に昭和六年六月文部省主催の全國高等女學校長會には

皇后陛下の御誕辰を國の休日とし文部省に於て奉祝唱歌を撰定せらるゝ様其の筋に建議するの件を提案した。香川縣高等女學校長一同からも私が前年提案したと同意義に次の如く提案された。

皇后陛下の御誕辰當日を國家の祝日とし國民一般に奉祝せしむるやう定められん事を其筋に請願しては如何

なほ前年全國女教員大會に於ても地久節設定の件は滿場一致可決請願が建議されて居たと思ふ。恐らくこれは全國民の聲であると信ずる。今私は彼是論ずるの必要はないと考へるので昨年の六月十三日に前記提案の理由を説明した言葉そのまゝをここに記して見ることにする。

謹んで提案の理由を説明致します。

皇后陛下の御誕辰は一般に天長節に對して地久節と申し上げて居りますが、公には左様の名稱は御定めになつて居ないと存じます。當日宮中御内儀に於かせられましては御祝ひ遊ばされるといふ事は仄に承つて居りますが、國民齊しくこの佳き日を御祝ひ申上げたいと存じます。否これは全國民の至情であると存じます。

御同様女學校に於きましては、奉祝の誠を形の上にもあらはして居りますが、小學校及び中學校以

上の男子の諸學校に於きましてはこの點に於て遺憾なるものあるは御同感と存じます。私は小學校實業補習學校青年訓練所等に關係致して居りますために特に多年遺憾に感じて居るのであります。又家庭に於ける實情からも中學校女學校小學校に通學して居る三人の子をお持ちになつて居る場合に於きましても同様の感を深うして居らるゝ方々の多い事と信じます。地久節は女學校が休業して奉祝すべきものゝ如き感を小學兒童等に抱かしむる事は國民教育上誠に遺憾とする所でありませう。

一天萬乗の大君の御誕辰即ち天長節を御祝ひ申し上げるといふ事それで我が國體の本義には合致して居るのでありませう。又よしあ上に於かせられまして、それに及ばぬと仰せられましたとしましては、國民の至情として私は多年 皇后陛下の御誕辰をも四大節同様に祝日として頂きたいといふ希望を持つて居るのであります。それは宮中の御都合其の他の關係もござりませうと考へますので、これに提案致しましたやうに國の休日として他の國祭日同様に全國一齊に休業して奉祝の意を表すべいと存じます。どうぞ地久節なる名稱も公に御制定になり、且文部省に於て新に奉祝歌を撰定せらるゝ様切に願望する次第であります。

皇室に關する事柄でござりますので、宮内省方面の御關係もござりませうし輕卒な事は慎まなければなりません。萬一手續其の他にあまりがありましては恐懼此の上もない事でござります。どうぞ文部省に於て十分御配慮下されまして私共國民の至情が達せられますやう切に／＼願ひ致します。すべては文部省に御一任致したいと存じます。

私のこの意見開陳に對して滿場勿論異議はなかつた。議長であつた篠原普通學務局長は特に起立して本提案の趣旨は文部大臣に申述べべき旨を言明せられた。

其の後文部省の意嚮等はさつぱり分らない事は私の遺憾とするものである。一日も早くその實現を念願して居るのである。もし全國に通じてその實現が遅くなるの止むを得ない事情でもあるならば、せめては本縣に於て何等かの形に於てこれを實現して範を天下に示して頂きたい。國民精神の涵養とか思想善導とかいふ事それは決して單なる言論ではない。

郷土中心 講座

清算取引の本質

S ・ S 生

一、清算取引は主として投機取引である

清算取引は主として物の相場の變動による差金の遣り取りを目的とするもので其將來上がると見越したるものを買ひ下がると思惟するものを賣り思惑するものでこの種の賣買方法は明らかに純然たる投機である。

抑も投機は之れを廣義に解すれば或る危険を冒して利益を得やうとする人類の行爲の總稱である。併し清算取引を一種の投機として説明する上に於ては狹義の解釋を施して之れを經濟的投機、尙ほ之れを限局して差金投機の文字を以てあてはめることが出来る。

茲に投機に似て然からざるものがある。投資及賭博が即ち之れである。之れに簡單なる解説を加へて置く必要がある。投資は人類が智識經驗に基き採算を考察して一定の資本を投じ之れに對する收益を目的とする行爲である。投機も固より智識經驗採算基礎とせる點に於ては投資と差なきも主として自己の信念に發する行爲たる點が前者と異つてゐる。次に賭博は經驗、採算智識（寧ろ所信と云ふべきか）等を加味するも所謂偶然なる事實、結果を基として行はるゝものである。この點が投機と異つてゐると云へやう。

以上三者は之れを其經濟的本質につき區別を設けたりとはいへ實際清算取引上、投機投資は固より、時としては賭博行爲を取てするものゝあるのは甚だ遺憾である。

尤も法律的地見地からすれば取引所に於ける取引中には假令賭博的行爲の隨伴ありとするも苟も取引所に於ける賣買である以上は投機及投資と同様適法行爲と看做されてゐることは取引所法の暗示する所である。

即ち取引所法中に

「取引所に依らずして、取引所の相場に依り差金の授受を目的とする行爲を爲したる者は、一ヶ年以下の懲役に處す云々」とあるからである。

二、鞘取（又は鞘取引）

取引所に於ける清算取引は農業者、養蠶家、諸工業家等の生産上の投機並に普通商人の行ふ交易上の投機の投機上より生ずる危険を差金投機市場即ち清算市場に掛繋き、其の投機的危険を市場に轉嫁して危険率の少なきを期する機能をも有するものであるが、この差金的投機は時に投機的性質を脱して確實なる鞘取引となつて現はれるときがある。

即ち現在の値段より先物の値の方が高かつた場合に現物を買ひ取つて同時に、先物を賣り置き其受渡時期に於て確實なる利鞘を收め得る場合の謂で、之れを普通鞘取引又單に鞘取といふのである。（以下次號）

疑 質 濟 經

短期新東足取表（一圓足）等の内に「放れ」と「標準値段」とが印されてありますが其の「放れ」と「標準値段」がわかりませんがお示教願ひます。（名倉SO生）

○「放れる」は「向く」と解してよいでせう。上放れ、下放れとか申しまして、之れは「上向く」「下向く」と云ふ意味に取れば宜しいのです。あまり動かなかつた相場が幾分上下を見せる場合に使ふ字句です。

○毎日市場で立つ時々の相場を標準値段と云ふのです。



如何に兒童の文を觀るべきか (其の三)

愛甲、煤ヶ谷 杉 山 熙

(五) 兒童の才能、性情によつてその文を觀てやらなければいけない其の文例

○運動會 六女 A 子

いよ／＼待ちかねた運動會が今日になった。やらうかやるまいか心がぶる／＼してきた。

朝起きて空を見ると、よいお天氣であつたので早く支度をして學校に行つたらもう旗をたてる所でした。

間もなく運動會にとりかゝつた。一番始めにラヂオ體操をやつたそれがおしまいになると見る場所についた。順々にやつていつて遂に六年の女生がやるやうになつた。今度は私なんかかけるやうになつた。その時私はびりでした。その時はくやしかつた。今度は遊ぎだ。天然の美。少したつて虹をやつた。間もなく綱引をやつた綱引がおへた。今度は萬歳をとへたそれから瀬之間さんからもらつた帳面を先生が分けてくれられた。そして家にかへつた家に着いた時はもう暗かつた。

本文は唯運動會をやつたといふことを書いたにすぎない。

無味乾燥なものである。このA子は成績も末等であり感受性の乏しい性情である。彼に與へられた天分はまことに少いものである。しかるに彼はとにかく分り易く一通り書いてゐる。この點私は大いに喜んでやりたいのである。そしていつもとくらべて量も増加してゐる。彼にとつて一大進歩を示してゐるのである。優等兒の過せらるゝこと餘り厚く、劣等兒の棄てらるゝことが常であり勝ちな教育界。何とかその恵まれざる天分に對して遇する途を常に心掛けたい。

○日曜日の仕事 六男 K 吉

僕は昨日朝から畑をやつた。道上のおかぼの根つこをあげた。それから横まくりのおかぼをかつた。それからおへた。

それから家へ行くべえと思つたら、お晝にしべえと言はれたからすぐ家へ歸つてお晝を食つた。それから外へ出て裏の方の桑をま

るきに行つた。それからおこじゆう時分になつたから、寺分のおかぼをあげた。それからあげおへたから、しよつておこじゆうを食つて、寺分のおかぼをあげた所を根つこをあげた。それからおへた。それから家へ来て足を洗つておよめしを食ひました。それからお父さんがよそへ行つてゐられた。へえこればええと思つてゐたらこられた。へえきれいにやつちやつたといつたら、今日はたんとやれたと言はれたから僕の喜びは一通りであつた。

それからが非常に多く、單に事柄を羅列したのみである。

文の形としてみる時にごくまづいものであり、餘程訂正させなければならぬ。K吉もまことにあはれな子である。

彼は先づ低能といふ仲間だらう、そして家庭は貧困であるこの文を読んで見のがしてはならないことは、彼が日曜にもかゝはらず家のために實によく働くといいふことである。この點は子供ながら實に感謝に値すると共に同情せざるを得ない。彼は身體的にも恵まれてゐず顔色は蒼白である。

彼の貧困な家庭は如何ともなし得ないのである。どうか綴方を觀る場合には單に文の巧拙のみに執はれず、彼らの文を通じてよく其の生活を見、彼らの友となり彼らの溫い指導者であるやうに心掛けたいものである。

一體田舎の百姓の子供は、小さい時から生活に追はれて子供としては、過重な勞働もしてゐる。吾々が親のスネをか

ぢつて先生面をして、いゝ氣になつて教壇から勤勞の儉約のと説くことが實に心苦しいことを思はせられることが少くない。

(六) 模範文例 終りにどうやらまあ模範文ともいへさうなものを數例掲げてこの項を終りたいと思ふ。

○こわい夜 六女 トシ子

ふと目をさますと、誰か通りの方で大きな聲でなつてゐる。

衛門さんだ。どうも衛門さんの聲に似てゐる。聲は段々と大きくなり、私の家の裏の方でなつてゐる。

隣へあばけこんだのだ。がた／＼とこはす音、さは／＼音。

耳のあなをよくあけて、目をばち／＼してふるへてゐると、表の戸がたりとした。もうこはくて仕方がない。

その中戸があいたと思ふと、隣のおちさんが父に来てくれと言つて來た。父はねまきのまゝ外へ飛び出した。こそ／＼と何か話をしてゐたがふと大きな聲をきいた。

「うらあ、今夜は命を投げ出す」

その聲のはげしいと言つたら、耳もさけるばかりの大きな聲。さきより一さうこはくなつた。

近所の人々のとめる聲、なる聲もよくきこえる。父が来て、

「油斷してはいけない。刃物を持つてゐる」と小さな聲で言つた。

父は太い棒を持つて又外へ出た。その晩に限つて眞くらなやみ夜空に星一つ見えない。

隣の子供も逃げて來た。その中に又父がきて、支度をしながら、

「早くねる、もうしばつてしまったから」といつてくれたが、こわくてねられない。しばらくしてくやしいのか

「やあ火事だ火事だ」

と急に大きな聲でどなった。

夜は段々に明けはじめた。警察もきてゐる。あばけた衛門さんは夜中にどこかへ逃げてしまった。家を逃げる時

「うらあこの家に二度と来ない」

と言つて出たから、近所の人は気が氣ではない。一生けんめいで仕事もしないで見つかへた。親類から山迄見たがゐない。最後にづしを見るとづしにぐら／＼とゐてゐた。やつと安心した。私はあの晩位わずにこわい思ひをしたことは生れてはじめてだ。まだこわいのが夢にもさめない。

工門さんの亂暴を中心として作者のこわい實感が、その場面を目前に見せられる如く、きび／＼と鋭く表現されてゐる。

現在法で書いてゐる點、父や工門さんの言葉をそのままにもつて來て、叙述を進めてゐる點共に巧妙であり如實である。

この文を讀んでゐると、次から次へと開展していく、めまぐるしい事件の推移に何となく押し迫られるやうな恐ろしさを感じてくる。さうして父が双物を持つてゐると小さな聲で言つたところ、その晩に限つてまつくらなやみ夜空に

は星一つ見えないといふ所に至つて、最高潮に達してゐるその晩に限つてまつ暗なやみ夜といふ表現などは随分生々とした力強いものである。

尙私は兒童にこの文を題を言はずに二回讀んで題をつけさせてみた。けんか、亂暴等が三、四分位あつたらうか。過半はこの題の通りに命名したのである。これによつて充分内容をつかみ得たか否かを察知することも出来る。

○魚屋さん

六女 靜 江

「お早う」

元氣のよい魚屋さんが、がら／＼と障子をあけて、はいつて來た「かれいに、いかだ。おばはん買ふのか」

と須賀の言葉で言つた。

この魚屋さんはそば屋に奉公してゐた人で、そば屋の印のついたはんてんを着てゐる。せいが低く太つてゐる。

「今日は、いよ」

といふお母さんの言葉もきかずに、いかに箱を持ちこんで、敷居の上においた。

「きたない。魚の汁がたくるからよ」

とお母さんが言はれた。

魚屋さんは勝手へ持つて行つたり、臺所をま／＼してゐたが、コンロにかけてあつた鍋をひつくりかへす所だつた。

箱を臺所において／＼する。いかに手で握つて

「大きい方が十錢で三つ、小さいのは四つ、どつちを買つておくのよう」

と魚屋さんがきいた

「大きい方を四つ、十錢で買はう」(おもしろい答だ)とお母さんが言はれた。

「それでは元がとれないや、よし今十錢買つといてくれな」

とまるで子供に言ひきかせるやうに首をかしげた。魚屋さんはいかを皿に入れて、又かれいの箱を持ちこんだ。兩手にかれいをさげて

「大きい方から見ると大へん小さいだらう小さい方が十錢、大きい方が十五錢」

といつてボンと手を打つた。

私がかれいを見ると、成程魚屋さんが言つた通り大變に差がある。十錢にくらべると十五錢のは徳だと思つた。うちでは大きい方のかれいを買つた。

「それじゃおばさん行つてくらあ」

と元氣に言つて大きな聲で歌をうたひながら、自轉車へ乗つて上の方へ行つた。面白い魚屋さんだと私は思つた。

ふだんから買ひつけの親しみ深い魚屋さんの或朝のやうすがお母さんと魚屋さんの話をとりいれながら面白く叙述されてゐる。

○しやぼん玉

六女 三 子

麥わらの先に石けん水をつけて、ぶーとふくらす。思ふやうに大

きく美しいのは出来ない。

そばでは弟がさも氣持よきさうにぶら／＼、ぶら／＼とふくらませてゐる。まるで煙草でも吸つてゐるやうに得意になつてゐる。私も負けぬ氣になつて、一生けん命になつてふくらます。

弟は「やあみつちゃんの顔は丸でおたふくのやうだ」といつて笑つてゐる。私はおたふくでもかまはないと思つて、又一生けん命になつてふくらます。

そのうちに、つまらなくなつたのだから、弟はどこかへ行つてしまつた。それでも止めないで又ぶら／＼とふくらます。出來た。出來た。赤い色、青、紫、緑、桃色、色々の色が次から次へと出てくる。家がうつる。お庭の草花迄大きくなつたり、小さくなつたり動いたりする。今度は青い色にかはつた。

家も草花もみんな一色になつて、その表がきら／＼と油を流したやうに見える。そして家のまはりは濃く中程はぼろ／＼としてうすい。

いよ／＼大きくなる。青い色が段々うすくなつたかと思れば、金色にかはつた。又前のやうに家も草花も金色になつて、くる／＼まはつてゐる。私はあまり美しいので大きな聲で弟をよんだ。あつと思ふ間にもうしやぼん玉の金色のすがたは見えなかつた。

いゝ題材をとらへて、實に流暢に美しく書かれてゐる。

○妹と小さな魚

六男 憲 三

學校から歸つてみると、妹が臺所にしやがんで小さなバケツの中を一心に見つめてゐる。

僕が「菊ちゃん、こんな所で何してゐるの」と言ふと、こちらを

いて、うれしうな顔で「今二三ちゃんにこんな魚を取つてもらつたの」

と言つたので、バケツの中を見ると魚が一匹。その魚がとても小さくて、僅か五厘位しかない。妹は非常にうれしうに見つめてゐる。

「二三ちゃん、どこで取つたの」と言ふと妹は「あの川で取つたのだ」と其の方を指さして何思つたか、そのまゝ外へ遊びに行つてしまつた。

それから少したつて、僕が部屋で本を讀んでゐると、今家の中へはいつたばかりの妹が突然泣きだした。僕が臺所へ行つてみるとバケツの中を見つめて、尙も泣いてゐる。「なぜ泣くの」ときくと「魚がゐない」といつて泣いてゐる。

僕も驚いてみるとゐない。

「どうしただらう」と思つて思はず下を見るとそこにはまあどろだけになつて、魚が死んでゐる。妹はこの有様を見ると尙一層泣く。僕も非常に困つた。

その中に妹は何を思つたか、急に泣き止んだ。變だと思つてゐると目に涙を一杯ため小さな聲で「憲ちゃん、さかなとつて来てやう」と僕にせがむ。ふだん川へ入るのがきらいな僕にはじめの中は嫌だつたが、あんまりせがむので仕方なく行つて石の下、草の下方々さぐつたがゐない。

もうあきたので歸らうと思つて下の方を見ると、水たまりで白い腹を出して、パチ／＼してゐる。早速そこに行き其の魚をとつてみると先のより尙小さい。

それをとつて妹に見せると、妹はバケツの中に入れて「ありがと

よ」といつて、さはつたり動かしたりしてゐた。

妹の顔には無邪氣な喜びの色が、あり／＼とわかつた。

妹と小さな魚なんて内容にふさはしい、いゝ題だらう。そして妹に對するやさしい憲ちゃんの兄さんぶりが遺憾なく表現されてゐる。

○昭ちゃんと喜平さん

六男 洋

世の中には面白い者もあつたものだ。

僕の家の下には、昭ちゃんといふ五歳位の小さい至つて面白いやつがゐる。

昭ちゃんの生れた年をおぼへてゐるのには一つよいことがある。それは昭ちゃんの名前は、昭二といふ名であるから、昭和の昭の字と一つとり二は昭和二年の二の字を一つとつて、夫れをつづけて昭二とつけたと思つてゐればよい。

又昭ちゃんの家の隣に喜平さんといふ今年四つらしいのがゐる。これは別に昭ちゃんのやうな事はないが、僕の特に面白かつた事は二人のけんかである。この前僕が學校から歸つたら、昭ちゃんと喜平さんと僕の妹とが、家へ上つて遊んでゐた。僕は外で一人で竹をけつてゐたが、ふと貝殻の割れるやうな音がした。今割れたのは果して僕の思つた通り貝殻であつた。昭ちゃんはあまりあはれてゐたので、そこにあつた貝殻にも氣がつかず、ついのはて割つてしまつた。

昭ちゃんは之を見ると、すぐ逃げだした。そして臺所迄來ると、喜平さんも一所に來たので、昭ちゃんはふところから別な貝殻を出して

「これをくれんから言ふなあ」と言つた。喜平さんも快く承知して

「おお」といつて手を出した。すると昭ちゃんはそれをくれないで、又ふ

ところに入れながら「いやだ」と言つた。すると今度は喜平さんは

「言はねえからくんどよう、言はねえからくんどよう」と言つたが、昭ちゃんはいくれないで、それをふところに入れて家へ歸つてしまつた。すると又喜平さんも「あばよ」といつてかへ

つて行つた。

幼い子供の生活が如實に表現されてゐて、快哉を叫びたいやうである。まことに面白い。

以上數項にわたり、私の思ひのまゝの分類のもとに勝手氣儘なことを書きつづけて來た。調子に乗りすぎるとボロが出ないでもない。この邊で筆を擱いて、にげることにしよう。(この項終)

(昭和六・一・二・一三記)

餘論

(一) 自由選題と課題について。

一時自由選題が非常にやかましく唱へられたことを覚えてゐる。其の頃は、私も綴方にたいした興味もなく、其の

日暮しをやつてゐたので、氣にも止めなかつたのであるが今にしてこの問題を考へる時、綴方に於ける一つの大きな問題であることを感ずるのである。自分の氣の向いたことを選んで作る。自由に作る。一見まことにこれでなくては

いけない様にきこえる。併しこれは大きな間違ひである。成程いゝ題が自由に見つかる場合もある。併し兒童には中々見つからぬ場合もあるのである。だから教師は常に或ヒ

ントを與へてやるやうにしなければならぬ。こういう題で作つてごらんといふ風にして、或暗示を與へて課題のもとに綴らせることが、随分必要である。さうかといつて、

勿論課題主義ばかりはよくない。いゝ材料のある場合にはいつでも自由選題で綴らせることが必要である。私の浅い経験からすると兩者半々位がよくはないかと思つてゐる。

(二) 鑑賞について。

讀方の鑑賞は其の文を味讀して其の文のもつ美感に溶ければいゝのであるが、綴方の鑑賞に於ては、唯夫だけでなく、常にその文の作られた根源を探ることに意を用ひなければならぬ。

どういふことがもとなつてこの文が作られたのだらう

といふ點を常に考へさせる必要がある。つまり作者の實感をつかませることにつとめなければならない。でないとな創作への刺激を與ふべき何らの足しにならずにしまふからである。

鑑賞の回数は實際の授業として行ふ場合にはさう多く出ない。まあ月に一回位特に行つたらいゝかと思ふ。材料は同級生の作品の優秀なものから求めることが、最もいゝと思ふ。これは児童が作者の性情、境遇等をよく知つてゐて、文の創意を探る上に於て、最も都合がいゝからである。従つて優秀な作品が出た場合には、機を逸せずこれを鑑賞せしめることも必要である。尙其の他多くの鑑賞文を集めて、これに材料を得ることも勿論必要なことである。

(三) 児童の言葉の言ひまはしについて。

六年位になつても、その文の中の言葉の言ひまはしが、大人から見ると、どうも變に思はれるやうな使ひ方をするものが度々ある。しかしこれは子供なるが故にであつて、そこに子供の特質があるのだから、餘種文意を解し兼ねる程度のもの以外は、これを訂正しないで、そのまゝにしておくことがいゝと思ふ。さういふ所をむやみに大人流儀に

なほしてしまふことは、文の形の上の子供らしさといふものがなくなつてくる。子供の文に子供らしさがなくなつてきたら、文の生命は大變傷けられるのである。よく圖畫や書方の展覽會などで尋常科の児童が全く大家のやうな作品を出してゐるのを見るが、あれは先生が悪いので、自分の

學校の評判とか、自分の手柄とか、けちくさいつまらぬ虚榮のために、先生の手を多く加へたもので、虚偽であり、あんな嫌氣のするものはない。一年生は一年生らしくどこちなく筆をひつればいゝ。一年生の字が高等科の生徒が書いたやうにとゝのつてゐたら、そこに一年生としての何の特質があるか。綴方に於ても全く之と同様である。徒らに外見のみを執はれて見えをよくするといふことは、教育上最も慎しむべきことである。綴方に於ても、各學年に應じて學年相當に其特質を重んずるやうに注意したい。

こんな意味から方言等もかなりの程度迄そのまゝ使はせて差支へないと思ふ。その方が文が生きてくる。神奈川県位の方言では、たいした分らぬこともないんだから。

又田舎の子供の文は言葉使ひも粗野であるが、そこに田舎の子供としての特質があるので、むりに「いらつしやいおつしやいました」等の都會向きの言葉使ひをさせる必要はないと思ふ。

(昭和七・一・五)



讀方教育の檢討 (其の一)

愛甲・南毛利校 杉山敏美

一

讀方教育もその喧噪の頂點を經過して、漸く平靜の研究へと落ち付いた感がある。けれ共この平靜の研究、舊い讀方への復起と言ふことが果して讀方教育の正道を歩いてゐるか否かと言ふことは、かなり疑はしいことであり、かなり考究を要すべきことであると思ふのである。であるから現在の讀方教育が歩いて來た過去の歴史のあとを檢討し、之を批判して、現在の及び將來の讀方教育の、正しい歩みの道を見定めると言ふことも、あながち無用ではあるまいと考へられるので、こゝに讀方教育の檢討と題していさゝか愚見を申し述べてみたいと思ふのである。

二

花々しく勃興して、かなりの全盛を極めた。児童心理に

基く讀方教育は、全くその聲をひそめて殆んど顧みられな

くなつたかの感がある。かくも全盛であつたあの奈良式讀方教育が、こんなにも甚だしく没落してしまつたと言ふことは、どこかに其の原因がなければならないと思ふのである。私は其の原因を。かの新興讀方が、内容把握と言ふことにのみ惠念し過ぎたからではあるまいかと思ふ。曰く、問題法、曰く作者の想定、曰く文段の研究等々、これ等諸種の方法を擧げて、花々しい教授ぶりを示したのであるがこれ等の諸方法は、讀方の目的は、其の内容を把握すること、にのみある。との見解の下に行はれたので、こゝに大なる缺陷を生じ幾多の弊害を残して引退する止むなきに至つたのである。

三

この内容主義讀方に於ては、文の形式方面の輕視が甚だしく、語句の意味や語法などに就いては、深い吟味もせずに直に内容把握へと走つてしまつたのである。であるから方法はその内容の注入で、研究の對象として最も重視すべき文章形式の咀嚼吟味を忘れて直に内容を教へ込むとしたもので、目的も方法も共に内容に偏してしまつたのである。此の讀方は内容は注入するから、その内容はある程度まで理解させることは出来るが、文を讀む指導の讀方としては極めて價値の低級なものであつたと思ふのである。であるから兒童の讀解力は著しく減退し讀方の實力は甚だ低下したと言つても過言ではないと思ふのである。これは丁度文盲の男が手紙をもらつたと同じやうなもので、その男は文字が讀めないから近所の學問の出来る人の所に行つて、讀んでもらつて其の用事を教へてもらふ。だから實際には大した差し支へは無いのであるが、二度目にもそうしなければならず、三度目にも五度目にも、始めと同じやうに他人に讀解してもらつて用事を足さなければならぬのである。此のやうに用事は了解するのであるが用事（事實）を知つたからと言つても一字をも讀解することは出来ないの

ある。斯くの如く其の内容は明になつても、文章を讀破する力は少しもつかない。讀解力がつかないから讀方の實力がつかないのは當然なのである。

四

こうした内容偏重によつて如何なる結果が生じたかと言へば、それは文章に對して正しい意味を把握することが出来なくなつたと言ふことである。文字力がなく讀解力が少いのであるから、どうしても漠然たる意味しか把み得ないのである。個文の意義や熟語の意味に於ても極めて不徹底で、正確な解釋などは殆んど出来ない状態であり、文字の書き方及び其の使用法に就いても非常に誤りが多く、全く文字難を現出したのである。

五

こゝに於て、此の弊害を救済するために、文章の形式的方面即ち文字方面を尊重しなければならないと言ふ主張が叫ばれて來た。文の正しい意味は文章の表現形式を吟味するにあらざれば到底つかみ得ないと言ふのが、その根本の主張である。——我々が文章を書く過程から考へてみても我々は我々の思想や感情を言語化し、これを文字で綴るの

である。こうして出来上つたものが文章なのであるから、文の意味を把握するには當然その逆の過程を通つて、即ち先づ文字の學習をなし、次にこの個々の文字によつて構成せられてゐる言語の研究があり、これ等を正しく理解することによつて、始めて正しい思想や感情を把むことが出来るのである。

六

故に文字や語句、語法をおろそかにしては當然その奥を流れてゐる思想や感情を把握することは出来ないのである。故に文字語句はどこまでも分解的にその意義を正確につかめと言ふのである。

斯くの如く文字に就いて適切に其の意味を究めることは勿論のこと、更に適當の場合、適當の材料に就いて、代名詞、複詞、接詞等語法上の法則を説明する部分も、特にこれを吟味して取扱つて其の法則を會得せしめなければならず、文章中文脈の複雑にして理解に困難な部分は、これを適出して其の組立を明瞭に理解させることが必要であり、又文章に加へられてゐる修飾は、それが如何に修飾されてゐるかを知らせ、これ等の取扱によつて、短文の又は文章

の意味を一層明瞭に確實に知らせることが緊要であると思ふのである。

七

また理解によつて解釋し得た文字語句は、更にこれを自由に活用し得るまで、其の應用練習を指導することが必要である。新しく學んだ文字、語句、語法を含んだ短文を提出してこれを讀ませてみる。又はそれ等を用ひての應用文の意義を理解せしめ、又はこれ等を用ひての短文を作らしめる等。その知識に活用を與ふるまで練習させることが極めて大切であると思ふのである。次は書取の練習であるがこれも讀方教育上、たいへん大事な事と思ふ。——文字を確實に自分のものとするには大いにその練習を必要とする。書取はどこまでも手の感覺を通じて文字を、字劃を、腦髓に銘記せしめなければならぬのであるから、幾度も／＼書かせることによつて銘記を確實にしてゆくのである。文字力の減退してゐる當今特にこの點に留意すべきであると思ふのである。その方法としては種々あると思ふが、普通に行はれてゐるものは

1 文章を見ながら書き取らせる。

2 口唱にて書取らせる。

3 文を見ながら改作して書取る。

4 缺字や缺語を補充する。

5 誤りを正して書取る。

6 答を受けて書取らせる。

等、種々あるがいづれも視力を通じて、或は手の感覚により、視力と手の感覚との混合感覚の上より練習せしめ、その字劃を正しく銘記せしめ、必要に応じて實際生活上活用し得るまで指導しなければならぬと思ふのである。

八

次に讀方の本質に就いて一考してみたいと思ふのであるが、この讀方の本質についてはいろいろの意見があるやうである。が私はこの讀方の本質が文章を讀むことにあると思ふのである。如何に理論が研究され、如何に實際が究明せられても、讀方當面の仕事は文章を讀むより外に道はないと思ふのである。讀方のすべての理論は、文章を讀むこの言葉の中に歸結せられ、讀方のあらゆる方法は、この文章を讀む、作業から出發せられる。

實に文章を讀むことは、讀方の理論の歸着點であると共

に、また實際の出發點である。故に文を讀まないで内容を把んだり、又は不完全な讀み方で内容を詮議しやうとするのは、いづれも讀方の本領を離れてゐるものである。實に文を讀む、と言ふことは讀方に於ける最も重大な仕事であり、此の讀むことをゆるがせにしては、到底讀方の正道は歩めないのである。これを不完全な取扱ですませ、内容のみを詮議してゐたので、文字力の低下した讀解力のない兒童を造つてしまつたのである。

九

文章を讀むことが讀方の本質であるならば、然らば文章を讀む、と言ふことは如何なることであるか？——それは文字言葉のつながりを讀むことである。この意味を明にするには、文章の要素を考へてみるとよく了解できるのである。およそ如何なる文章でも、苟も文章の形態をなすには必ず文字で綴られてゐなければならぬ。文字で綴られないものは、それが如何に豊富な内容を持つてゐても、如何に深い思想が表現せられてゐても、それは文章ではないのである。故に文章としては、文字で綴られる、と言ふことが必要缺くべからざる條件となるのである。つぎに其の文

章は何を綴るのであるかと言へば、それは言葉である。言葉は形の無いものであるから、これを文字に綴つて有形化するのである。「風はすつかりないで、落日の影がゆらゆらと水の上に金の波を流してゐる」と言ふ言葉も、これを文字に綴つてこそ、そこに形のある言葉、即ち文章が生れ

るのである。故に文章として表面に表はれてゐる形態は、文字、言葉である。斯く考へてくると、文章を讀む、と言ふことは、この表現に表はれてゐる文字、言葉を讀むと言ふことになるのである。(つづく) (昭和六・二・二六)

吾が縣教育會の前途

縣教育會の政變とか、事務所の移轉とか、大小の意見を齎した理事會が毎回開催される國歩艱難の秋、次の「某縣教育雜誌」の巻頭言は聊か興味を以つて吾等の注意を惹起す。

某前主事に餞す

廻 瀾

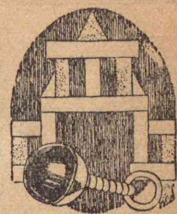
本會が内に外に劃期的革正と躍進とを試みるべく、常任幹事(今の主事)を物色し、君の就任を懇請したのは昭和三年七月のことであつた。當時君は其規模に於て縣下第一なる松江市母衣小學校に奉職し、小學校長としては縣下第一の待遇を受けてゐたが、大に感ずる所あり、決然其榮職を抛つて本會に就職することを快諾せられた。今後に於ける君の最も重大な仕事は教育會を教育會たらしめることである。これが君の就任を祝福する私の

第一聲であつた。君も亦肯いて大いに期する所があつた。その古い傳統を打破したことは、本會に取つては實に破天荒の革新であつた。謂はゆる「教育會を教育會たらしめる」ことが出来、教育會の存在を意義あらしめることが出来た。もとより時運の趨勢と會員の自覺とに由るものであるが、主事たる君の人知れぬ努力と苦心とを忘れてはならぬ。

其他會館の移轉、聯合教育會の組織等多年の懸案の解決せられたのも君の在任中であつた。君は至誠の人である。すべての畫策、すべての折衝、之を貫くに至

誠を以てする所に君の本色が誠が與つて大いに力ありといふのは、決して好む所に阿る私言ではない。

人の功業は單に年月を以て計るべきものではない。君が常任幹事として主事として在任せられたのは僅かに三年であつたが、叙上の功績は確かに本會の進展史に特筆大書すべきものである。而も君は昨春來健康を害せられ、今回遂に退職せらるゝの止むなきに至つたことは、三千會員の齊しく歎け齊しく惜む所である。況んや多年本會の爲に、共に泣き共に笑つて私共は、全く片腕をむがれた感がある。併し既に「教育會の教育會たる」基礎の築かれた以上、私等は及ばずながら君の志を繼いで、更に一步を進めたいと思ふ。冀くは意を安んじ十分に静養せられよ。敢て燕辭を餞して君の回春を祈る



綴方雑誌

高座・旭校 安室 勇

綴方に趣味を有し、綴方を研究しようとする教師は一校内にあまり澤山居ない。十人十色各人は面貌が異なる様に性格も、趣味も違ふのだから、皆が皆綴方をと願はない。願ふ方が寧ろ無理かも知れない。然し一校内に一人の研究

者も居ない有様ではあまり心細い。

何故綴方の研究者は少いのであらう。

一つは教科書的のものがないためによりどころを缺くと言ふのも一因であらうが、根本は児童文の観方などについて未だ定着した處がないからであらう。児童文を観るに誰もが誤字脱字の訂正、或は注意を促すとか、重複語の訂正を促すとか、や○等の符號の用法を規定するとか言ふ形式的な観方に於ては誰にも常識として握られて來た事は何人にもうなづける事と思ふ。然し綴方が児童の生活の表現

であるならば、そうした形式的方面のみを以つて價値を目的する事は出来ない。更らに取材の廣狭の上から觀る事も必要であり、材の消化の深淺から觀る事も大事であらうし、表出の仕方、個性に立脚して最も作者的な、他には適用の出来ない尺度を以つて文にのぞむ事である。かやうに文を生命的に觀てゆかねばならない。文を生命的に觀るなどは多くは表出の仕方と、個性に立脚してと言ふものを如何に善用するかに依つて決するものであつて、之等が指導者の心の中に生育して始めて文を觀る事が出來たと言ふものであらう。が而し、かゝる研究は極めて至難の事であつて綴方研究者の少い因をこゝに見出す事が出來よう。

該科關係の書籍雑誌の内容を語り、或は研究事項を相互に發表するとか互に提携して研究を積みたいと常に願つてゐる。

一校内に同志を得ず只黙々として只一人研究して行く事は自己の生活を深め、思想を豊富にしてゆく上に甚だ不都合であり、又寂しい事でもある。他校の同志なり、熱ある研究者なり、權威者などに近づいて指導を受けるなり、又は意見を共々戦はす事は自己の研究修養に甚だ有効である

綴方が児童の生活の表現であるならば、形式一點張の教案であつてはならない。形式一點張の教案ならば寧ろない方がよい。嚴密に考へたならば全児童の一人一人についての教案が作成せられねばならぬ。若しさうした教案が作り得たならば綴方の進歩にどの位効果があるかは想像にがたくない。而し、我々にはそれだけの時間と餘裕はない。

児童の作品を處理するは中々面倒であるが成可く早く必ず讀んで處理しなければならない。が而し我々には綴方の

處理にのみ特に多くの時間をさくことはゆるされない。四時間乃至五時間の授業の外に、職員會研究會と言ふものがある。休みの名に依るものがあるも児童の看護、掃除の監督などと決して他に利用する事の出来ない時間である。それに必ず書かねばならぬ教案の調製がある。他に書方、圖書手工の處理があり、或は地圖をかくとか、史圖を用意して明日の授業にそなへるとか、理科實驗の準備をして置くとか、之等の時間を平均加算したら相當な時間になる。こうした事情を知つては誰だつて綴方にのみ六時間も七時間もの時間をさくことは出来ないであらう。そこで經濟的にして而も有効に作品を處理しなければならない。

經濟的にして而も有効にとは考へようによつては大きな間違を生ずる。經濟的にと言ふ事のみを考へて勞を少くして短い時間にと考へる者が多數であらうが、唯それだけであつては綴方の本質的方面が顧慮されてゐない傾になる。有効にと言ふ事は經濟的にと切りはなして考へたくない。

經濟的にと言ふことを骨を折らずにと言ふたら、そんな責任のがねな勝手な方法を研究する必要はない。之は指導に

最も能率のあがる有効な処理方法と解したい。處理が能率的であるならばその處理は最も有効である。處理の結果最も適切な指導が生れるやうに處理の方法を考へるべきである。

記述の仕事についても多くの指導者は傍觀的態度を取つてゐる。兒童は兒童、自分は自分といった氣持の上に立つてゐるらしい。記述の直前、直後に何等特別の意味を認めていないのである「先生！ 題がありません」「先生！ 綴るものがありません」と訴へれば、「何でもいゝから書きなさい」である。之では餘り無思慮、無方針ではないか。見るところ一番單純な仕事の様であつて實はこのところ位大切な綴方の業務をなしてゐるものはないと思ふ。

綴方の成績を振興させようとするならば、先づ兒童に綴方の趣味を持たせることだ。それには教師自らが趣味を持たねばならない。趣味を持たない教師は丁度歌はない。唱歌教師であり、畫かない圖畫教師でもあるのではないだらうか。教師にして綴方を困り方と嫌厭し厄介視し虐待して

ゐる有様では到底本科の實績をあげることは覺束ない。綴方に趣味を持つ教師に依つて自然の間に感化され、反映されるものである。

現代社會の教育者

教育者なるが故に正々堂々の主張もなし得ず無理の壓制にも泣き入りしねばならぬ事柄の多いその環境である。遇するに道をもつてせず責むるに法をもつてされる今日の教育者の環境である。窮極の到達點を洞察するの明ある人は、成る様にしかならぬ結果を想うて、安價に諦めて、無抵抗主義で世を渡る事を得策となし、自己擁護の爲めの順應生活を馴致し、五年十年と教育界にあつたものは打てど響かぬ破れ太鼓のやうに成り果て、仕舞ふのが常であつて、多少の響を出す人物は異端者視されて、とうの昔に教育界を迫はれて居る。従つて教育界に残留する人々は好々爺然たる云ひかへれば環境に適する保護色を帯びた人のみ多くなつて、教育界に時を得て居る結果になる。

勿論これは一種の類比推理からの結論ではあるが、我が國の教育界乃至教育者が上述の如くなつたとしたら、教育界こそ社會に於ける落伍的人物の避難所に好適となつて、天下の落伍者の自覺者は翕然として教育界に集注される事になりはせないかと杞憂されるのである。若し斯くして第二の國民教育事業が、天下の落伍的人物にのみ委れられた結果を想像する時に、吾人の怖るゝものは必ずしも今日の赤化思想のみでは有るまいと思ふ。
(山梨教育卷頭文の一節)



唱歌教育 に於ける 聴くことと就て

足柄下・湯本校 熊澤三四郎

せられると見たいのである。

唱歌科の目的の中に歌ふことを得しめるといふことがある。先づ平易なる歌曲が教へられずして——自己の力で歌へるまでに培はれなければならぬといふ意である。然してこの歌ふことを得しむることは又やがて聴くことを得しむるものとなると思ふ。なんとすれば眞に歌ふとすれば自己の培つた力を通して必ず他をも鑑賞しようとする意思を生ずる。鑑賞し得ることによつて歌ふことも出来る。即ち歌ふことゝ聴くことゝは一元的のものであり相合的のものであり、不離結合の状態にあるものであると思はれるからである。

この歌ふことと聴くことゝが圓滿に培はれ、なし遂げられてゆく過程に於て所謂美感の養成が達せられてゆき、同時に徳性の涵養にもなるものでこゝに音楽的人格を育成

音楽的人格の圓滿に發達せられてゆくことは、決して道徳にのみ生き得た人であるとは言へない。吾々は單に道徳のみによつて束縛されていたのでは、遂に枯死状態に等しいものとなつて了ふ。言ふまでもなく人間のより生き甲斐のあるのは己れの持つ力（それが如何なるものであつてもよい）がまんとくに他の束縛を受けずに展開されていく所にある。然もその力は他に有害のものであつてはならぬ。自己の爲に如何に必要なものであつても他を災ひすることは眞の己れの力でないことは言ふまでもない。道徳といふ一つのカテゴリーを無理に認識して、その中から一步も出られぬものが人生ならば世に人生悲惨なものはない。昔の純情道徳家のように「道」の十字架を背負つて立つことのみを求むることは好ましくないではないか。吾々には吾

々の理想があり慾求がある。その理想慾求に向つて進むとき唯無意識の中に、正しい道が展開されなければならぬ。即ち吾々の意思なり感情なりが發動した際にそれを一々正なり、邪なりと突作の状態に於て分別し、それが自然に解決されて遂には半意識的に取扱はれてゆかれなければならぬ。美の直感はやがて徳の包含であると西田幾太郎氏は説いて居られたことを思ひ出す、現今の藝術は必ずしもそれが圓滿な美の表現であるとはうなづけない、極端な繊細さ神經的或は奔放的、奢侈的な美の表現が必ずしも圓滿な美の表現であると斷定することは出来ない。勿論藝術は圓滿でなくとも價値をせよめるものではないが、然し何れの場合に於ける表現であつても、常にその基礎的な現れを基としていかねばならぬ。それでなければ多岐に亘る現在の藝術は理解されるものではないと思ふ。ましてや小學校に於ける唱歌教育は基本的なものである。圓滿な人格的の培ひをすることによつて音楽的人格の芽を伸ばしてやればよいのである。換言すれば大きな美意識の圓内から滲み出る繊細な或は奔放な或は極端なといふ様に美の多面的なる内觀を求むることが出来る基礎をつくつてやるのが眞の教育

的に求むるそれであると思はれる。

私は以前、ジャズに就て一言したことがあつた（尤もそれは童謡ジャズに就てのほんの片端の意見に過ぎなかつたが）そしてそれを攻撃した——本紙第二百八十號記載——

然し私はジャズそのものが必ずしも嫌ひではない。あの如何にも大陸的な、そして色彩の豊かな、リズムカルな、聞く人をして思はず蕩醉させずには置かない魅力のある特徴は到底他に聴くことが出来ないことを私は認めている一人である。山田耕作氏もジャズに就ては最近右の様なことを言つてゐる。

ジャズが所謂享樂的、遊蕩的音楽であるから、それが世界の一般大衆の歐洲大戰後の妙にイリテートした人心に生活に對して與へる最もよい甘酒——或は一種の毒酒であるといふやうに論じ斷つて了ふ事は出来ない。唯それが如何程甘いものであつても、それが本當に私共の何處かに觸れる所がなければあれ程強く、またあれ程早く世界を風靡するものではないと思ふ。多くの音楽者は或點ではそれに共鳴を感じ表面ではジャズを貶し乍らも内證では是を助成したといふやうな傾向がある。私自身など

もジャズ反對論者であつたので、ジャズはいかなど、言ひ乍らジャズが鳴つて來るといつのまにかいゝ氣持になつて」云々。

と、全く山田氏の言葉はジャズの特徴と之を貶する人々の心裡をよくとらへたものであるものと思ふ。私も矢張りあのインプロヴィゼーションな音楽を聴くと思はず浮かれて來る様なセンチメンタルのような、平たく言へばよい氣持になつて來る。然しそこに又何となしにジャズの不品格な所も思はれて長く聴いてると厭味を感じて來る。

が然し、山田氏もその後で言つてゐるように是迄の長い世紀の間、どうすることも出来なかつた行結つた音楽、金縛りにされた音楽をあの面白い輕妙な、それでいて仲々味のある酒脱な調子で音楽を新らしい十字路に誘ひ出した様な所が今後如何なる方面に發展し、展開されていくかの問題によつて興味ある未來を有つ音楽であると思ふ。

ともあれ現在のジャズに就ては、聞いていて氣持はよいが音楽的品格に於て小學校の兒童には不向であることを思ふ。それよりも私は、もつと、もつと正しいそして圓滿なとはれない音楽の世界にあつて確實な人格の培ひを理想

とすべきであると思つてゐるが故に、前述の如くジャズをみてゐるのであるし、又その流れを汲んだ童謡ジャズなるものを批難する一人なのである。

二

一體從來の日本の唱歌教育は歌ふことを主としていたことは争はれぬ事實であつて、それがために現在盛に聴く爲の教育をなさんと努力してゐるのである。レコード教育も聴音練習も皆こゝから出發した叫びである。この新傾向は日本の斯道に誠に喜ぶべき現象であつて小學校兒童教育からみれば之が正道であると考へてゐる一人である「歌ふこと」を得しむるのも實はこの聴くことが立體となると考へられる「聴くとは何か」即ち鑑賞である内觀である自己の魂を呼び起し或は満足し或はこれによつて伸ばしむる爲の内在的感激の充實に外ならぬ。であるが故に歌ふそれ自身が既に内觀でなければならぬ、兒童に唱歌させることも歌ふことによつて自己を自己の持つ美域に存在せしめる所の教育である。獨唱にせよ合唱にせよ齊唱にせよ、將又レコード鑑賞にせよ、音楽會其他あらゆる兒童に授くる唱歌の何物と雖も精神とする所はこゝに表はられなければならぬ

然し自己の歌ふ場合と、他人のものを聴く場合とに就ては自らこゝに限定された精神的差違を生ずることは言ふまでもない。私はこの邊の交渉を表現的内観と攝受的内観とに別けて考へてみたい。

兒童が歌ふところには（正しい指導の後に於て）必ず生命の躍動がなければならぬ。歌詞に就ての理解や歌曲に就ての消化や、そうしてそこに會ての自己（その歌を知る以前の）を挿入して混然となつた心持を以て歌ふそこに自己の表現が完全になされるのである。故に兒童自身には決して他人の爲に歌はせるのではなくて、それによつて培はれた自己の内在性を確實に表現することによつて、より音楽格（音楽的品格）を自然に培養してゆくのである。音楽家を養成するために兒童に唱歌教授するのではないと、多くの識者が言ふのはこゝに精神があるからである。

然してそれは、獨唱に齊唱に合唱に、その性質の異なるあらゆる部面にもこの精神が表はれてゆくべきである。之を私は表現的内観と言葉は悪いかも知れぬが稱してゐる。

この表現的内観は前述のように決して他の人の爲に兒童に唱歌させるのではなく、全く自己のためにではあるが、然

し不眞面目な兒童又は不用意な教師には、この極致は理解されずに済む場合が多い。唯眞に敬虔な態度を以て當る兒童教師の心のみにきつと表はれる精神である。所が之に全然異なる所の立場に置かれる場合がある。即ち他のものを聴く場合である。之は日本の教育者誰しもが叫んで居られる所で、レコードにしても音楽會にしても常に聴き手となつて臨む時の態度である。自己の表現はなくとも他人のそれによつて、自己の内在的な音楽格に觸れてそこに美の培ひをなす場合である。私の所謂攝受的内観とは即ち之を指すのである。

この二つの内観は常に音楽的環境に置かれた場合の小学校兒童教育には絶えず忘れることのできないものであつて教師はこの二つの何れをも無視し若くは輕視することは出来ないことである。それを忘れて單に歌はせ聴かせることはこの教育の内容を零に近い價值として批難しなければならぬ。即ち唯歌ふことの巧拙に就てのみ云々する教師だけが音楽教師であると考へてゐるものがあれば、それは教師自身を非教育的に満足せしむるにとゞまつて兒童はその陰で虐げられていなければならぬ。

三

私は兒童が唱歌する時、常に「魂を以て歌ふこと」を要求している魂のない生命の存在は人間にはあり得ない。けれども兒童はともするとこの存在を是認している場合が多い唯歌つてゐる。歌詞も考へない曲も味はない平面的にお勤め式な、何等そこに中心を持たないでぼんやりと無意識に口を開いて聲を出しているに過ぎない所の歌ひ方をしてゐる。之では何等の價値を有し得ないことである。かうした兒童が發聲を間違へたり呼吸を無視したり、時には言葉さへ歌ひ害ふような滑稽さを演じるのである。魂を以て歌へない兒童には到底氣分は味へるものでない、氣分の味へぬ兒童には音楽的感情の培養は望めない。それは既に模倣一點張りの進み方であり、生命の抜けた骸に等しい兒童であるからである。

私達が兒童の音楽格を培養する上に最も忘れてならないものは、その味はしめようとする所の歌曲に對する或共通域まで兒童を導き入れることである。如何なるものに於てもそこに多少に共通點といふものがある。即ち他の類似的の歌曲に對するレベルの有機的過程の價値區域である。その

有機的過程の價値區域までは教師と兒童との混和された努力によつて達せなければならぬものである。例へば文唱、「故郷」に就て言ふならば、三拍子の四部形式であることや、アクセントの特徴が何處にあるかといふことや、メロディーの持つ發想の分岐點等を研究して、さてそれらが歌詞に對して如何なる働きをなしているかを考へる。然して歌詞の持つ生命を充分につかんで之を如何に唱歌すべきかを理解し、その理解の上に立つて唱歌させるのである。こゝまではどうしても教師自身の責任があるものとみななければならぬ。然してその後に来るものは所謂兒童各自が持つ感情によつて表現的内観をせねばならぬ。唯兒童に對して生命を表現せよと要求するのみで、歌曲の吟味指導も何等させなかつたら樂的粗野の兒童には到底培はれる價値を大ならしむることは出来ない。

教師自身の正しい音楽的人格と、正しい批評眼によつて眞に兒童は生命の表現を望まれるものである。

私は私の唱歌教授を參觀に来られる人々から、コーラスは何學年位からすることが適當であるかと、A小學校に行つたら三年生が二部合唱曲をやつていて驚いたとかいふ

ことを聞くことがある。私はかうした參觀者の言葉に對して少なからず敬虔の心持を其人に對して持つと同時に一面憂ふるものである。

そうした人達の多くは全く眞剣に唱歌教育の向上を念願し現在接している。兒童の程度に不満な心持を以て何かしら發展の能力を得たいと努力しているに相違ない。

何事によらず現在を理想の範疇として認識しているものには、向上發展の道はとざされるが現在の持つものに不満を有することはそのものに對する理解があり、研究の進路が開かれているものだ。唱歌教育の不振は一つにはこの充分な理解を教師自身が持たずに單なる満足を以て、満足としてゐる所に大なる原因があると私は常に思つてゐる。かゝる點から眺めて右の様な質問を發せられ、且又驚かれる人々は何かしら唱歌科の現状に横たはる駄石を押し退けて進まんとする勇氣を有つ人であると信ずるからである。然し其勇氣は眞に喜ぶべく尊敬すべきであるがかかる人は確實なる信念を欠くる點なきやを一面から憂ふるのである。

若き唱歌教育者は殊に他の美しい(敢て言ふ)授業をみせつけられると、ともすると自己の環境にある兒童の心理

を無視してまでも、己れがあこがれの幻惑を實現しようとなせり易い。過去に於ける流行的な教育思潮の導入は矢張りかゝる不意な忠實の様で實は不忠實な、教育眼から生れて來たものが可成にあると私は思ふ。

小學校に於ける兒童に對して何故にコーラスせしむる要があるかといふことに就て、私達は確實な信念と用意とを持たなければならぬ。唯流行を追ふものとして之を授けるのならば、非常な過ちで害こそあれ何等益ないものとなるだらうことを憂ふるのである。

四

唱歌教育が歌ふことと聴くこととの一元的に考へられる立場からして、私の所謂表現的内觀に重きを置いた時常に私の求むるものは、正しい姿勢と、鼻孔の共鳴と、それから伴奏の價值的表現である。最近發聲問題が八釜しくなつて來た結果、口形や、發音や、頭聲方面の指導は可成に徹底して來たけれども、然し未だ何處かに物足りなさを感じる。といふのは前述三つの問題が、どの地方に行つても徹底していない所で私自身も之の問題に就ては、頗る苦心をしてゐるのだが、中々徹底した喜びを未だ持ち得ない。割

合に難かしい問題であるのだが、多くの教育者は之に力を入れていないらしいことを見受ける場合が多い。殊に鼻孔の共鳴は兒童を表現的内觀に導く上に最も大切である。

兒童に對して歌ひ乍ら他の人の聲を聞く訓練が大切である、伴奏の微に亘つての聴方も大切である。自己の聲と他人の聲とそして伴奏と混和された場合に美の調和を發見するであらう所に兒童を導かなければならない。かくして訓練づけられた兒童は自然とハーモニーの美を感じ、識別する能力を培かはれる。殊に獨唱に於て一層のハーモニーの美に浸らせる必要があると思ふ。

之の精神を欠いた兒童に對して、合唱せしむることは少し困難である。然し、斯く言つても兒童は合唱が出來ないといふのではない。合唱することは一年でも簡單なものなら出来る。出來ても是を吟味し、感得する能力がないのである。然しそれでは合唱させても何等効果はない。日頃から訓練づけられた兒童(獨唱や齋唱に於て)にハーモニーの基礎的理解を通して合唱せしむる時初めて効果が現れるのである。然してそれは心理發達から眺めて尋常五年以上が最も適したものであると思ふ。

もし基礎的な歌ひ方の訓練と聴き方の訓練が、一元的に進められて來た、この期の兒童ならば合唱曲を歌ひ味はしめることは必ず自然である。然してその階程としては非カノン形式から入るべきことは價値多きものがある。

なぜならば彼等は以前に可成にハーモニーの美を味つたにせよ、最初は聽覺を無視した謂はば理智の世界から單純なメロディーを通しての美を味はねば「眞に歌ひ味はうこと」が當然苦痛であるからである。カノン形式が此の種の唱歌者に對して最も有効に使用されるのは、同一のメロディーの流れを追唱的に且つ單純に唱誦することによつて、單音唱歌の有する音の把握を通して、自他兩誦によつて生まれたハーモニーを客觀的に味はふ餘裕を有つからである。勿論寺院音樂としてのカノン形式が其の發生當時に於ける或音樂的優越を有していたこと並に、その個性に思ひ到れば是をかう一つの音樂的方便として使用することは、カノン形式に對する反逆的行爲であらうが、然しコーラス形式の立派に育成された今日歌謡史からみればカノン形式は寧ろこゝにその使命を果さんとすることがより價值的な存在であると私は思ふ。

是が相當に歌ひこなされた兒童は、ハーモニーとしての基礎的聽覺を現實にとらへることが出来る。次に先づ三度音程程度のもを授け又はカノン形式によるコーラスものを授くる様にしてゆきたい、但しこゝに注意すべきは兒童がハーモニーを理解する上に最も困難なるものは、四拍子アンダンテの如きものにして、然かも減度増度の多く使用され且つ音程の離れた連續であるといふことである。かゝるものはなるべくさげねばならぬ。可成に聽覺の確實性な兒童であつても苦痛なものである。音程が下つてハーモニーの合はないコーラスになつて了ふ如きは、皆此の何れかに欠點があるのである。

五

兎に角、唱歌の何れの部面を眺めても歌ふことゝ聴くこととは一致すべきものであり、之によつて感情の陶冶を圖るのである所に、私の言はんとする所は盡きるのである。現在の多くの教授者は此の精神を忘れて單に技巧的に兒童を指導せんとする傾向あることは、やがて鑑賞教育の上に暗き陰を投げるものであると思はれる。

三勇士からうけた
教育者への誠

上海戦場に於ける孰れ劣らぬ勇敢な武者振りの中に、敵の鐵條網を破壊するため、爆死を志願せし三工兵の決心こそは凄慘萬人をして泣かしめる者がある「三人は今生の別れを隊長始め戦友等に告げ身體一ぱいに爆弾をまきつけ黙火して『帝國萬歳』を叫びつゝ飛び出し、深さ四メートルの鐵條網に向つて飛込んで壯烈無比なる戦死を遂げた」と云ふ。

師團長始め戦友等は涙を流して、その最期を弔ひ「帝國なほ亡びず」の感に打たれたと。

吾人教育者も又彼等三工兵から誠へらるゝを深くかつ大なるものがある。國難頻發の際、靜かに襟を正して嚴肅に吾等身らの教育的良心に省みるべき者はなきか。



現代世相と劍道的精神

横濱・市場校 永澤 要 二

外に滿蒙問題の騒ぎあり、内に赤化思想、不景氣、生活難等の叫びありて、吾人の腦裡を彌が上に尖鋭化しつゝあるの秋、翻つて吾人教育界はと凝視すれば、其處にも、或は勤勞教育、或は勞作教育、宗教教育、云々と實に目まぐるしき程の教育教授が、吾人の眼前に展開され、襲來し來る。かくして吾人は世相の動靜には心魂を悩まされ、吾人の日常生活には、自己の生命をも動搖せしめられんとす。於是か吾人は現代世相に如何に對應すべきか、又現代教育思潮には如何に處すべきか、等を少しく考察し、検討し以て諸彦の御指導と御批判とを乞はんとす。

抑も現代世相に如何に處すべきや、等の事は勿論簡單に論じ得ざる問題なるも、都合上方法的立場を一切除外し目的立場より簡明に論究し、結論せんか、そは、日本人

としての行爲を忘却すべからずてふ一言に盡されはしまいか。又現今頻りに叫ばれつゝある諸種の教育思潮も、究極の目的は『人生の生活を永遠に持續する爲めの具案的大系』の一言に盡されはしまいか。若しも以上の見解に大過なかりとせば、吾人は單に世相に悩まされ、教育思潮に本命を苦しめんよりは、先づ果して我國在來の教育的原理にかゝる思潮なかりしか、又かゝる世相に對する指導的精神否指標がなかりしかといふ問題に着眼せざるを得ぬ。即ち今少し具體的に考察するなら、現代頻りに叫ばれつゝある教育とは自己自覺なりとか、自覺より生れ出でたる自律的行爲云々とか、又教育者の、眞我の教育とか本願、法身への教育とか、或は哲學者の純粹經驗とか、無我とかいふ問題は、果して我國古來の教育になかりしかといふ問題に着

眼し探究せざるを得ぬのである。

於是吾人は絶叫したい。歐米の模倣教育又は宣傳等にのみ迷はされる時代は既に過去ならざるべからずと、然して我國古代よりの教育に着眼せよと、而してかゝる思潮かゝる教育によりて、現代世相に着眼し、應對せよと、かくして五十年來の模倣を打破し、現代世相を驅逐して更生日本としての生命に價值づけよ。

と以上の論點よりして我國精神の表現とも見られる武士道的精神とり分劍道的精神とその教育とを少し述べて御指教を仰がんとす。武士道的精神とは抑も如何なるものなりや、勿論一言にして盡し得ざる所なれども、一言にして盡さんか、邪を斷ち正を養ひ克己復禮の精神とも云へ得よう而もかゝる精神は、即ち吾國、古來の神道の根本精神たる赤誠、正等と一致するものである。即ち神道は正しき心、虚偽なき心、神そのまゝの心、赤き心、であつた。之を平たく云へば、清淨潔白を表はさん爲めには即ち黒き心のなき事を表現せんためには、自己の腹を搔き切つて正を表はさんとしたのである。

即ち神道の精神も、武士道の根本も、日本魂の表現も根

ゐたのである。

又劍道は克己復禮の精神より弱きを助け、強きを制する精神があつた。

神皇正統記の中に、三種の神器の由來を述べて『鏡は一物をたくはへず、私の心なくして、萬物を照すに是非善惡の心現はれずといふ事なし』又劍は剛利決斷を徳とす智慧の本源なりと、即ち是々たる名劍、一點曇なき鏡の如く劍道的精神は、正そのまゝの姿であつた。

その姿その精神こそは、身を殺して仁をなしたのである。所得孟子の惻隱の心、孔子の仁、即ち『玆に兒ありまさに井に入らんとす、誰か之を救はざらんや』の精神たり得たのである。即ち眞の武士道的精神とり分劍道的精神の所有者は、自己を宇宙の眞理に置き、人類を否宇宙を自我とし、眞我とする、大精神であつたのである。

然も劍道の大精神の代表者とも見るべき、徳川時代の劍客にして大教育家、宮本武藏の遺書たる五輪之書を繙かんか、實に現今叫ばれつゝある、宗教教育の根底も、勞作教育等の原理も十分云ひ盡してゐるの感がある。即ち氏の教育法は自覺的、自律的、自發的教育であつた。然もそれが

本に於ては全一體、渾一本の生命であつたのである。然もかゝる思想は佛教や儒教の影響を受けずとも、古代よりの精神であつた。即ち、伊邪那岐大神が、笠紫日向の橘小門の阿波岐原にて褻被なされ給ひし事や、尙天照大神が宇氣比によつて御心の清淨を試されし事や、大伴家持の歌に、『海ゆかば水づく屍、山往かば草むす屍、大君の邊にこそ死なめ』云々の思想等は明かに清淨、正、赤心、誠、等の思想を物語るものではあるまいか。

而して是等の精神も思想も、武士道的精神とり分劍道的精神によつて存續せられ、又培はれて來たのである。即ち正、誠、等の心も劍道本來の目的たる、克己、忍耐、勤勉、質素、剛毅、正名（名を重んずること）等の精神によつて涵養され存續され價值づけられたのである。

即ち劍道の根本をなせる、不動の精神、明鏡止水の如く彼我もなく、生死もなく、萬機に應接し、靈活自在、よく一人の敵に勝り、千人の敵に勝ちといふ強き自信、信念こそはよく之等の消息を傳へ物語るものである。是孟子の、『吾反而縮雖千萬人吾往矣』といふ。即ち、自己に潔白、正ならば、水火尙不辭といふ所に劍道的大精神が存在して

眞我の發見、眞私の活動の場合にのみ眞の教育が行はれるとしてゐる。即ち人生永遠の生命を持続せんための具象的組織的に立脚しての教育であつた。

何處迄も人格主義に立脚し、何處迄も價值創造を本體としての教育であつた。自己を完成し、自他一如の世界を創出せんとする教育であつた。

氏の文を少し抜粹せん。

天理を離れざるが故か、又は他流の兵法不足なる所にやその後猶も深き道理を得んと朝夕鍛錬して見れば、自ら兵法の道にあふ事我五十歳の頃也、それより以來は、尋ね入るべき道なくして光陰を送る。兵法の利に委せて諸藝諸能の道となせば、萬事に於て師匠なし、今この書を作ると云へども、佛法儒道の古語をもちらず、軍記軍法の古き事も用ゐず、この一流の見立、實の心からはす事天道と觀世音とを鏡として云々と。

又空の卷に。

空の卷として書顯はす事、空と云ふ心は物毎のなき所、しれざる事と見たつる事也、勿論空はなき也、有所を知りて無所を知る。是則空也、世の中に於てあしく見れば物を

辨へざる所を空と見る所實の空には非ず、皆迷ふ心也（中略）武士は兵法の道を慥に覚え、其外武藝を能くつとめ、武士の行ふ道少しもくからず心の迷ふ所なく、朝々時々怠らず、心意二つの心をみがき、觀見二つの眼をとき、少しも雲なく、迷ひの雲の晴れたる所こそ實の空と知るべき也。（中略）利は有也、道は有也、心は空也云々と。

又火の巻に。

無念無想といふことをとき、應無所住而生其心、云々、或は又 思ひなく巧もあらぬ夢想には虎さへ爪の置き所なし。

之劍道の最も重んずる所、これぞ佛教にていふ、涅槃、或は無我、佛心、哲學の絶對我、純粹經驗、とも云へ得べく、又儒教的精神の根本ともいふべき、孟子の、不動心、『曰く云へ難し』等は皆、劍道的精神と云へ得るであらう然も此の教育法は、孔子の『不憤不啓不悱發舉一隅』云々の教育法であつた。何處迄も正しき自己完成を本體とした、のみならず氏の教育法は、型何々主義ではなかつた風の巻に。

我が一流に於て太刀に奥はなし、構に極りなし、唯心を

以て其徳を辨ふる事、是兵法の肝心也。云々と。

何處迄も、師對兒童は、血のにじみ出る接觸、靈の檢討であつた。心魂の研鍊であつた。氏の云はれた。道は有也心は空なり、型は有也、機に臨み、變に應じての對應こそ眞の道なりと云つてゐるはよく之を物語つてゐる。

以上劍道的精神の代表ともいふべき此の教育法は、簡単に列記せるに止まるも、尙、劍道は現行はれつゝある各種の競技と比較するに幾多の長所を發見し得る。即ち單なる娛樂的、遊戲的のものに非ずして、心身の鍛鍊にある。自己創造にある。然も牧亮吉博士の發表の各種運動家の死亡その他の統計を見るに、一番危険率の少きを見る。

かく想到せる時、我が劍道的精神の養成は一は身體的方面に偉大なる効果あり、又精神的方面に於ては臨機應變に處すべき心身の調和的發表を期し得べし。

然も又現代人の如く物質にのみ汲みたる結果、所謂、唯物的見地にのみ立脚せんとする結果、現今社會を餘りに不平に解し、偏見的に眺める結果、赤化者、窃盜等の發生するを見る時、吾人はあの『武士は食はねど』云々の思想を以て之等を磨滅せしむるに足るべし、又現今頻りに叫ばれ

つゝある、勞作教育、勤勞教育といふも、その根底を流れる所は自己自覺による活動、平たく云へば總べての仕事に喜んで然も研究的態度でやるといふ、基礎を養ふにありと思はれる。之劍道に於ては、機に臨み變に應じて活躍し得る基礎を涵養するにあれば、之等の思想之等の原理觀も十分云へ盡してゐると思はれる。

尙劍道は終身の事業なり、一朝一夕にしてよく劍道的精神を涵養され悟道され得るものに非ず、一步一步漸進的に然も不堪不怠、修鍊の功を積むに非ざれば達し得ざるものなれば、その忍耐剛毅克己等の心身的鍛鍊は偉大なる人格構成をなし得べし。

然も劍道は如何なる場合何時の場合に於ても、修鍊せられざるといふ事なし。即ち二人以上なれば、地稽古、又は練習、一人なれば基本練習、進みては刀劍による。心身の鍛鍊或は無刀にして心魂の鍊磨（座禪と同じか）何れも終生之を行ふも尙足れりといふべからず。

然るに現代の野球、徒競走の如きは多大の場所を必要とし又年齢も考慮せざるべからず、學生時代ランニングの選手たりし者が卒業後、四圍の事情上急に運動を廢せしが爲

急死せり云々等の記事は吾人に何を暗示するであらう。

山岡鐵舟居士の詩

學劍心勞數十年

臨機應變守愈堅

一朝疊壁皆摧破

露影湛如還覺全

之よく劍道精神を表現して遺憾なしと云ふべし。

然らば之等の劍道的精神は小學校に於て、如何にして涵養せしめ修鍊せしめ悟道せしむべきか。以下簡単に列記せん。

文部省の學校體操要目に示されたる。

劍道、柔道はその主眼とする所は、身心の鍛鍊に在りと雖も、特に精神的訓練に重きを置くべし。技術の末に奔り勝敗を爭ふを目的とするが如き弊を避くるを要すと。

又運動は生活上一日も缺くべからざるものなれば漸次、其の必要を自覺せしめ家庭にある時、又は卒業の後に於ても常に之を行ふの習慣を養成せん事に努むるを要すと。

以上の考察點よりして、小學校に於ては、尋常五年以上の生徒に、基本練習を主體として課し、副として地稽古、又は仕合稽古等を課し、高等科の兒童に於ても同様にして唯程度を少し高むる位の程度とすべきかと思ふ。

基本練習とは如何なるものかと云ふに、劍道の基本動作となる所のものにして、身體を強壯ならしめ、且敏捷耐久身體の骨格の均齊發育、氣息長く、眼明かに、疑懼心を去り心氣體一致の妙境を得、等の長所あるものにして、之を精神的方面よりすれば、自ら劍道の精神を悟道し得る所の基礎たり得るものなり。

その方法とする所は

一基本練習には木刀、或は竹刀を要す。長さ太さは兒童の力量に相當するを要す。若し竹刀なき際は竹にて作るも可。長さは三尺四寸位のもの。

之によりて練習を行ふ。何れも基本練習なれば、各週二回位、放課外十分位乃至三十分位迄は可、一學級六十人位迄は一齊教授をなし得、然して各分團ごとに五分位交代に行ふも可時々道具をつけて地稽古を行ふもよからん。但し教師の十分なる注意のもとに。

高等科も之に準ず。

かくして二、三年後には相當心身の發達せる跡を見出し得べし。(尙その基本練習の内容は後日に譲らん)

單に世相を託ち、或は右往左往自己の生命を没却せんと

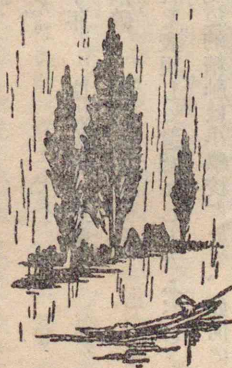
する前に、先づ吾人は是々たる名劍に照して、是非善惡を截斷すべく、閃々たる白刃には自己を正し、世相には勇往邁進すべきではあるまいか。

又歐米の教育者を口にせば教育者たらずてう、觀念の所有者や、又單に順應云々を口にする人士ありとせば、吾人は絶叫したい。

古代精神に返れ、然して研練せよ、新文化の建設に應用し活用せよと。

然して造次顛沛の間にも、泰山崩るとも動せぬ人士の養成に資せよと。

これ吾人は特に小學校に於て、劍道的精神の涵養を必要とし基本練習を課せよと絶叫する所以。(終)



短 歌

津久井・牧野校 小山倉之助

曉 雞 聲

いとし子の寢覺語りに夜は明けて

羽ばたき高くにはとり歌ふ

雞の聲にまどらの夢さめて

神代なからの春は來にけり

新 春 雜 感

教へ子が小さき思ひに滿洲を守る兵士を案じ語らふ
朝まだき庭に眞白き霜ふみて遠く國守る友を偲びぬ

旅 出

旅出する父にすがりて幼な子は片言交り土産ねだりぬ
小夜更けて獨り峠の道せけばゴム長靴の重く思へて
待合のストーブ消へし眞夜中に又焚きつけし驛夫うれしも

春といへどまだ明け初めし正月をバスケットして汗の
滲みぬ

兎や角と畫筆に暮れて歸り來れば町の灯あかく美しき
かも

御 代 の 春

豊岡校 岩田紅一

四 方 拜

兒等二千國歌朗かや御代の春

二 重 橋

和子の瞳に大禮服の參賀あり

明 治 神 宮

初詣 子と仰ぎける大鳥居

靖國神社滿洲展

軍帽に血痕まざと春寒し

カメラ春興

初撮し觀音様の塔や鳩

なごやかに初湯の靄や大鏡

餅花や大黒柱艶やかに

俳句

都筑・山内第一校

石原日の出

新春雜詠

書初めの賞受く子等の笑顔かな
 乳呑兒の分にも雜煮もられけり
 初空の午後は曇りて小雪かな
 のんびりと初湯に浸る草家かな
 太れとて指程もある雜煮箸
 嚴かな曉の社や初詣で
 汗をかく道の小砂利やバナ、風
 供へ餅いつかねずみに見舞はれり
 恙なく皆雜煮食ふ今朝の春
 東風吹くや山入笹のさらさらと
 眞先に初日拜みぬ年男
 寒月や夜鷹そば屋の笛の音

(七・一・一九)

新年二題

貞廣一燈

○左義長

左義長の竹はぜ松の燐ゆるかな
 左義長やあちこちの煙濃く淡く
 燃え糟の松がいぶれるとんだかな
 持ち寄りて高きとんどを囃しけり
 神童や流石群抜く吉書揚

○樺

乳母が家や樺に結ふ小橙
 樺や七五三に掛けたる千代結び
 水引の紅白垂れぬ樺に
 樺や千歳を傳ふ艶青し
 樺の片葉大なり蝶結び

○途上三觀

春浅き溝に澱むや青水泥草
 買ふとなく夜店の梅に見入りけり
 往きに凍て歸路ぬかるむや雪解坂

名倉俳句會句集

蘭玉

餅花のあざやかにある机上かな
 團子花夕陽靜かに輝ける
 蘭玉や下に時計の刻む音

手まり

手まりつく子に午る餉を呼びりける
 つきそれて庭にころびる手まりかな
 叔母様の土産に貰ふ繪まりかな

猫柳

猫柳たそがれ早き川邊かな
 猫柳いけて靜かな客間かな
 せゝらぎにかげうつし居り猫柳

猫の戀

飼猫の家ぬけ出して戀しける
 戀猫の屋根をつたいて通ひけり
 文讀めるへやにひゞけり猫の戀

春の雪

川の面とゞかぬまでを春の雪
 大引けの廓靜かに春の雪

秋 幽 川

秋 同 川

秋 江 川

江 良 子

同 白 鳥

降りながら消えて行くなり春の雪

江 月

春の町

鳥籠を買ふて戻るや春の町
 ジヤズの音に溶けて行く夜や春の町
 春の町馬嘶きあひにけり

江 月 山

紙上俳句會

梅

間

山

花にまだ間の有る鉢の小梅かな
 學校と役場の間の梅盛り
 梅いけて明るくなりし客間かな
 草葺の小舎建つ川岸や梅盛り

園

女

江頭の一角梅の白妙えに
 柔らかに梅かほり来る朝日かな
 梅林やいつか開けて文化村

○ 學園の梅咲いて心伸びにけり
梅の咲く丘に學舎のそびえけり
風のまゝや池にちりしく梅の波

よしあき

○ 散る梅のゴミにせかるゝ小川かな
山路ゆく人の帽子に梅のちる
梅ちるや山寺が撞く六ツの鐘

尋六けんじ

○ かげの梅汽車のひゞきでちにけり
梅さいた毎朝まゐる不動さま
ほつべたに梅ちつて來た山路かな

尋三とほる

○ 雨ぼつり梅の宵宮寂ひれけり
比叡下りて湖を眞近や梅林
梅の門に魔除の札の古びけり
灯に撰るや梅の茶代の上り高
風續いで野梅に恙なかりけり

一燈

梅 五 句

世相諷刺詩

三月季題

一、雛 祭 三句吐

二、春季雜詠 三句吐

締切三月十五日

一月句會ハ應募少ナキタメ選ヲ施サズ

一、判官切腹、若狹は上首尾。

吉良の機嫌も 袖の下。

二、『清く、明るく、正しく生きよ』の訓戒結構。

去り乍ら、

三、嚴と凭れた 安樂椅子も

袖の下には 揺れが来る。

燈

昭和日本國民歌

作 詩 土 井 晚 翠
作 曲 陸軍戸山學校軍樂隊

一 神聖神武 わが皇祖、
日本の基 建ててより

連綿として 傳はれる
二千餘年の 帝國よ、

皇統 ひとつの系にして
一百二十四、 代算ふ。

二 明治 大正 さきに 立ち、
昭和 續きて 新たなる

使命 東の空に曙け
妖霧 拂ひて 瞳々と

昇る 旭日の旗風に
まづ 滿蒙の草靡く。

三 世界の陸の 三が一、
四千萬方キロメータ、

世界人口の半 越す
十億の民 大亞細亞、

亞細亞 一つに結ぶとき
普天の下に 敵あらじ。

四 皇道廣く 施して、
四海の幸を 求むべき

理想に盡す わが使命、
鏡と 玉と 劔との
三種の神器 いや高き
わが象徴の 尊しや。

五 鏡は 照す 身の誠
玉と 劔は 仁と勇
恩威 ひとしく 萬邦に
垂れて 榮と 平和とを
内と外とに 來すべく、
わが任 重し 道 遠し。

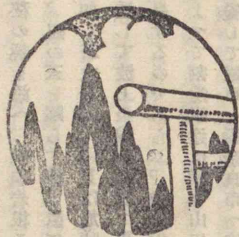
六 ああ 光明は東より
光 めざむる あけぼのの
太平洋の 波の上
日本の富士を 仰ぐとき、
希望は つねに 若やがむ
四海の平和 わが理想。

昭和六年十一月郡教育會の命に依つて關西教育視察の途に上つた。同月九日午後三時過ぐる頃島屋村から自動車走らせ、松田島屋校訓導と共に橋本へ向つた。中野町に至つて梅澤校長に逢ひ、三人車を同うして行路の提携を約した。橋本から汽車にて八王子に到り、一行六名相會して日程を定め廻遊券を購ひて、搭乗、東京驛に着いて時の至るを待った。東京驛は流石に東洋の大停車場だ、乗降の客肩摩擦の有様で初旅の田舎者には殆んど一驚を喫せしめたのであった。

同行六士發東都、一瞬鐵車視察途

半夜寢臺人定後、只看星火照昏衢

午後十時鳥羽行の夜行列車に身を托し、汽笛一聲帝都を辭して關西の征途に向つた。



關西詩行脚

津久井・青野原校

小泉 碎石

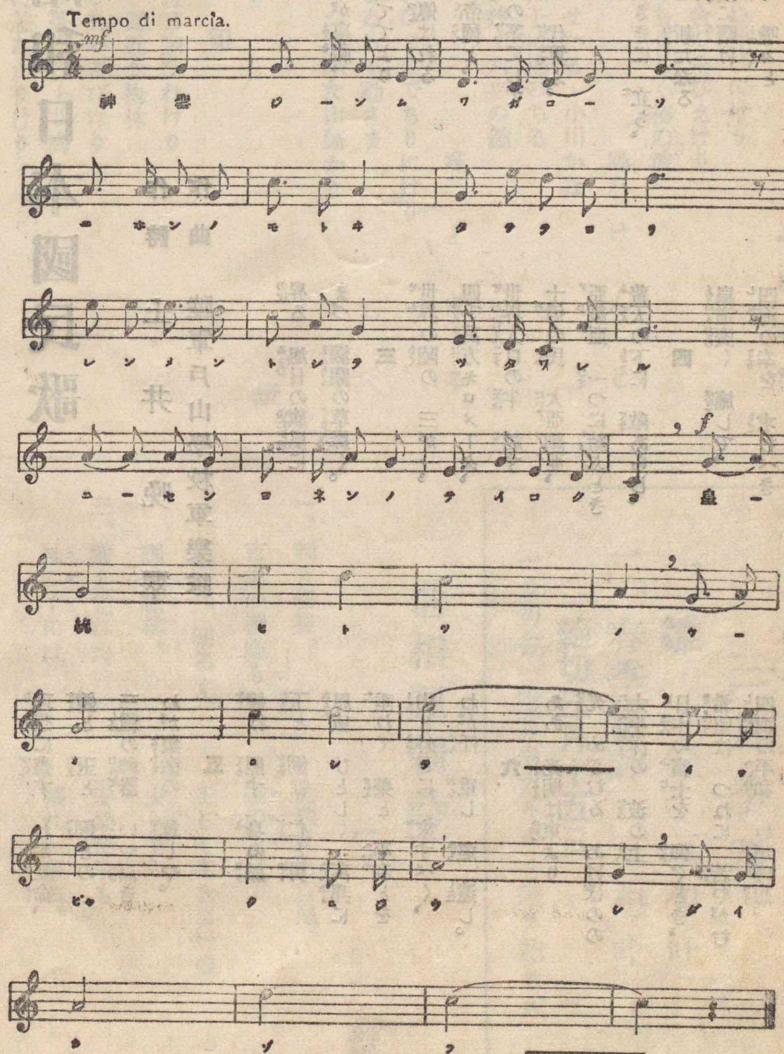
同列車は乗客夥しく殊に氣温高くして衣被を脱かざるを得ざるの暖かきで習日の天候が氣遣はれたのであつた。汽車の一夜として旅慣れぬものには到底車上に一睡の夢を結び得なかつた。騒々として軋り行く鐵路：窓外暗くしてその何れの地たるやを認めず只驛名の著しきものは大に懐古の情を惹起させて、聊か旅情を慰め得たのであつた。名古屋驛に至つて、天明け朝風肌を吹いて氣味誠に清く、車中洗嗽をとつて心地全く爽かになつた。土瓶茶を喫して一路の平安を祝し、睡眠を睜つて市街を眺望せるも、關上金鰲の光を仰ぎ得なかつた。少時にして汽車は前進して刻々に前程を縮めて正に第一日程たる宇治山田の驛に着いた。一行は茲に降車して更に自動車上の人となつ

た。先づ外宮に參拜して神徳を仰ぎ邦家の隆昌を祈つた。神域清淨にして風致幽邃、實に皇國の大廟、言語筆紙に盡し難いのである。宇治橋を渡れば橋下潺々として水清く細鱗をなして齒致一段の趣がある。歩いて神社に入れば、古杉老樟鬱密亭々畫向々、五十鈴川の清流は玉を浮べて殊に淨い乃ち洗手嗽口内宮を拜し奉つた。石垣の下に脱帽脱套鞠躬如として石階を踏み、御神門の前に跪けば敬虔の念勃々として湧き古昔西行の歌も偲はれたのであつた。社頭謹んで國家昇平渡瀟軍士の健勝を禱つて、靈徳の感應を仰いだのである。神苑を迂回して攝社へ詣で、再び自動車を馳せて神都の名區二見浦に向つた。時將に午ならむとして日光中天に赫々天空清く澄み渡つた。

昭和日本國民歌

(光は東方より)

陸軍戸山學校軍樂隊作曲





鐵車轆々、到神都、視察關西即首途
滿目無塵心轉淨、展開山紫水明圖

聖域清淨絕世塵、老杉古檜轉鮮新
仰來昭鑑與靈德、跪拜社頭狼道身

又
神路山峯聳碧空、宇治橋畔澹秋風
邦家宗廟祭如在、瑞氣祥雲積翠中
源をたづねて遠く五十鈴川心も清く祈る
内宮。

神路山のぼる麓の瑞垣に外宮拜せる身こそ
安けれ。

自動車四十分許にして二見浦頭に着いた。
乃ち車を下りて岩窟に沿ひて進み遙かに岩
上の小祠を拜した。海中二岩對立して大小
其形を異にし、メ縄太く結び廻らして實に
神秘の趣を添へ、細浪岩根を洗ひ徐に碎け
て、銀の玉を羅らす様、眞に畫中畫を見る
が如く若之を朝天に見ば旭曠の光兩岩の間
を透して波上金線を劃して更に一層の雅趣
を呈するのであらふ。前途尙遠し時間亦貴
しよつて割愛版途に就き山田驛前の小亭に
午餐して鐵車一瞬奈良市へ向つた。

二見浦頭秋色尤、海波躍玉景光幽
恰如一幅畫中趣、即是神都山水優
七五三太く結廻せる岩の上に清々しくも
立てるみ鳥居。

奈良へ着いたのは十日の晡時であつた。
前夜の疲を醫すべき爲め早く旅舎を求めて
三條の玉屋旅館に旅装を解いたのは加藤吉
野校長、加藤共勵校長、佐藤菅井校長、梅
澤三井校長、松田鳥屋訓導と予と一行六名
である。浴を取つて寛博を被ひ藥石を終へ
寸隙を借つて猿澤池の夜景を探つて午後十
時枕子を呼んで征途の第二夜を逆旅に過し
たのであつた。前夜車窓の體同行一體華胥
の郷に遊んで鶏鳴曉を告るを知らず含婢に
覺されて被を出で盥嗽して朝陽を旅亭の階
上に拜し喫茶喫粥つて玉屋を辭し奈良女
子高等師範學校附屬小學校を參觀したので
ある。旅館を辭するの時不圖心に浮んだ口
占の一首は左の通りであつた。

伊勢いよく玉屋に秋の一と宿り心安めて
はい左様奈良。
奈良女高師附屬に至り參觀名簿に署名し
て階下第一の教室に入つた。此室は合科教
授なれば或は讀方或は綴方又は圖畫又は手

工と各自の思ふ儘に自學自習して時々教師
に批評訂正を乞ふやうであつた。室内は處
狭きまでに各科の參考品を集めて兒童の學
習を資け又兒童の創作物をも澤山揚げられ
てあつた。廊下に輪投げをしてゐるもあつ
たが、殆んど自動的に處理したり平假名を
用ひて童謡を物してゐたりして、中々活動
振りが好かつた。殊に室内に圓かな大卓を
おいて之を机として兒童を對坐せしめたの
は、尤も團圓的な親しきを感じさせたので
あつた。尋二、尋三何れも尋一同様合科教
授であつた。尋三が夏期休業に創作したと
いふ電氣應用の電車横型や廣告塔や米搗器
械等の説明並に批評まで、兒童各自の自發
的であつたのは誠に面白味があつた。尋四
女の算術は出題説明質問研究悉く兒童自身
の活動であつた。尋五の讀方尋六の理科も
中々落付があつて眞趣味を見せてゐた。該
附屬の方針「伸び行く」といふ主義の下に
學習せしむるを極致としてゐるやうに想像
せられたのである。

午時に校門を辭して歩を公園に轉じて先
づ春日神社へ詣でた。石階數百級を踏めば
兩側の石燈籠は古色蒼然綠苔に封せられ社

殿廻廊の釣燈籠は奈良朝の例を存して懷古
の情を唆り良辨杉の挺然たるは奇しき物語
を追憶せしめて低回する能はずであつた。
若草山の麓を廻つて大佛殿に詣ててその莊
嚴偉大なるを拜し七代七十年の奈良の古を
偲び南圓堂、北圓堂、金堂三重塔、五重塔
の建設の美を賞し花の松の年古りし風致を
愛でて五重塔前の芝生に奈良の神鹿を伴ひ
て記念撮影をなし公園一周汽車に投して大
阪市を訪ふた。

猿澤池分嫩草峰、五層閣對塔三重
公園曳杖惹吟興、神殿寺觀總客蹤

又
神鹿群遊悉是明、巨松蟠屈翠如層
降車坐愛晚秋景、占得奈良全市勝
古の奈良の都の秋の幕紅葉の錦づるうれ
しさ。

鐵路法隆寺驛に至り自動車を驅つて往復
十一分餘にして日本最古の建造物法隆寺の
輪奐を觀た車費僅かに二十錢のみ。寺域に
入つて金堂を始として三經院大經樓大講堂
南大門、東大門、仁王門五重塔夢殿上宮王
院鐘樓西圓堂聖靈院上御堂などを巡覽して
無限の感に打たれ上宮太子の遙觀英明とそ

の聖跡の偉大なる眞に渴仰措く能はざらし
め、境域の幽と建築の粹と兩々相俟つて法
隆寺の價值倍大なりと信じたのである。
聖德上宮卜地開、美觀築得機樓臺
況還十七憲章道、即識興隆正法來
大阪を訪はんと欲して先づ四天王寺に詣づ
るは亦聖德太子の建設に係り古風最も拘すべ
く優美愛すべきであつた。素人眼には如何
とも評し難きも千古の遺物として驚歎の外
なかつたのである。大阪城を見んがために
濠畔を廻れば恰好し這回天守閣を新造改修
して大阪城公園を設け當日その祝賀會であ
つたが、遺憾ながら未だ一般の入場を許さ
ず止むなく天守閣を仰望して豊公の偉圖を
感じた。大阪は川河の利便と橋梁の架設と
相待つて實に貨物集散の要衝たる水の都に
外ならず浪華の繁榮亦之の力に資るものと
言ふべきである。自動車數分にして道頓堀
南詰日本館に投じて兩脚を伸べた。

豊公遺跡水都尤、棚設園庭風致幽
仰見雲間天守閣、日東長傳築城優

又
五色蒼然聳半空、上原太子寸心中
門頭停杖感多少、秋靜淨圖千古風

終夜軌る車に眼ざめして浪花の夢も結ば
れぬかな。
習十三日瀧川小學校を參觀した。先づ首
席訓導より施設經營の一斑を聴き次席に導
かれて校内の設備を巡視して大に啓發せら
れた。殊に學用品給與と植物標本の栽培と
は他に見ることの出来ぬ美點である。之れ
より造幣局に至り百方懇請して參觀を可せ
られ階上より階下の作業を見學して國家貨
幣の如何に貴重なるかを了得したのである
金貨より金貨に至るまで一目瞭然實物示教
の賜實に大なりである。階上古金銀貨の標
本は最難見の參考品であつた。
造幣局を辭して汎愛小學校を訪ひ校舎内
外の設備を一見したが時恰も午時であつた
から授業を參觀し得なかつた事は憾多かつ
たのである。本校は式場の構造全く最善最
美を盡したものであつた。最も參觀人規則
の嚴格なる點は他にその例がないであらう
と思つた。參觀は隨意であるが教室に入つ
て言語を發せぬこと兒童の冊子に手を觸れ
ぬこと机間を巡視せぬこと等規定せらるる
に依つて瀧川校とは全然其趣を異にするも
のと感じられたのである。

大阪を後にして神戸へ向つた。此日は汽車泊の豫定であれば時間利用沿道の山水風光を懐にせんと試みたので神戸より自動車求めて市街の光景を目撃し湊川神社に参拜して嗚呼思臣楠氏の墓に謁し大楠公の神徳をたゞへた。現下滿蒙の事變日に倍々擴大せるの秋新たに公の再生に依つて國家を泰山の安におかむことを祈つた。嗚呼公が七生報國の遺訓と昭々たる神靈を信じて坐るに感涙に咽んだのであつた。この日怡も楠公デーとして境内雜選を極めてゐたのであつた。

萬古無比劃策奇、湊川遺蹟事可知
七生報國奉公誠、欲起滿蒙紛亂時

路を須磨に取つて海邊の明姫を探つた。境濱附近の景色の美須磨天神の壯大一の谷古戰場の俳を想ひ車を下つて敦盛の首塚を三の谷の入口に引ひて花の着の平家の公達に一片の涙を手向けて冥福を祈つた。舞子濱を過ぐれば古松姿珍らしく雅致尤も多く明石海峡を隔てて一草淡路島を望みては柿本人丸の古歌も偲はれたのであつた。明石城跡も逍遙して菊花の展覧を観賞して聊か夜行の時限を調節し夕景姫路驛に着き一小亭

に晚餐を調へ空腹を充たしたのである。

須磨海邊光景幽、就中一谷戰場尤
無端追憶寺門裏、青葉笛聲千古優

又
舞子海濱松樹奇、况還秋晚夕陽時
逍遙難去吟心動、唯有密林積翠知

又

明石風光一段奇、歌仙遺跡古今知
遙看點々如星火、淡路海濱日沒時

海原に馬の鬣たて直し波と消えちる花の公達。荒武者の涙拂ひつ三の谷討ちし頭を埋む悲み。明石より呼べば答へむ淡路島秋の夕榮美き哉。夜の白鷺城を一見すべく同行五人(某氏大阪にて分袖)は練兵場を横切つて城濠を一巡した。白鷺城は日本城中の名城であつて七層の小天守閣と三層の小天守閣とがある。往昔山名宗全羽柴秀吉池田輝政等の名將はみな茲に活躍した。城内見るべきもの夥多ありお菊の井戸寶物の皿お菊神社腹切丸等殊にその名が高いのだ。城後の縣社姫路神社を過ぎて右方を仰げば天守高閣雲間に髣髴として聳へてゐた。此夜姫山公園に菊花大會ありて且つ餘興の喜劇を

催し見物立錫の地なきほどであつた。時を節するがために暫らく之を見るも其辯關西語にして之を見之を聴くも興味まことに少なかつた。唯生花大會の如き師範代奥傳中傳初傳の挿技各其妙を戦はせて大に心目を悞ましめたのである。

姫路公園白鷺城、形勝風致古今鳴
欲尋天守高臺美、燈下相携信脚行

又

往古來今以劇鳴、珍藏器物興更清
井中阿菊神靈德、遺跡永留煎餅名
軍營の喇叭の聲も絶えにけり松風高き白鷺の城。
亡きたまを神とあがめて後の世に名残とどむるお菊煎餅。



講筵

我國思想運動に就いて

文部省學生部學生課長

久

慈

學

只今御紹介にあづかりました久慈であります。開會の辭にもありました通り、今日の日本は内外多事、外は滿蒙其の他外交問題、内は思想問題、經濟問題即ち之であります。此の時に當つて本縣では四ヶ所に於て思想問題に關する講習會を開催されました事に就いては、誠に時勢に適した試みであると思ひます。私が親しく皆さんにお目にかゝつて我が國の思想問題に就いてお話しせよとの命令にて、この機會を得ることが出来ましたことを無上の光榮と存じます。我が國の思想問題の一般狀勢について申し上げたいのですが、其の前に我國に於ける思想問題は如何なる輪廓を持つてゐるかにについて述べたいと思ひます。

一體思想問題とは如何なるものと申しますと、學術的にはともあれ、簡單に申せば、社會改造に關する思想を原因として生起する社會の問題一切を云ふのでありますが、

我國に於ては、さまで多種多様ではなく、實際に其の中心をなすものは所謂社會主義思想であります。而してこれら凡ての社會主義思想に通ずるものとしては「現在の社會は不平等である。貧富の間隔、幸不幸の違をなくするには、此の世から搾取をなさねばならない。それには資本といふ私有財産をなくし、資本によつて不勞働生活をなす資本家の群をなくすることが必要である」といふ思想である。而して其の社會に於ては、國家其の他の中心勢力に依つて働らかざる者は食ふべからずと云ふ原則による社會を樹立するにある。

即ち其の社會に於ては、私有財産の撤廢と、私生活の自由を制限して、各人間に平等を期待するのである。十八世紀の自由平等論の喧しかつた時代に、かのゲーテが「自由と平等とは兩方共に與ふことは困難である」と言つてゐる。

るが、社會主義の精神は各人の自由は捨てても、各人の平等を主張せんとするものである。

我國現在の社會主義思想には色々あつて區別されるが、其の中心はマルキシズムである。これはマルクスが樹立した思想體系であつて、俗に科學的社會主義と呼ばれるが、この言葉はマルクス自身がそれ以前の社會主義思想と區別する爲に付けたものである。即ち空想的社會主義思想に於いては正義觀や人倫道德的立場から出發してゐるが、マルクスが科學的であると呼ばれる所以は、其の基礎を過去現在社會の檢討分析に置き、社會進化の順序から搾取の撤廢の必要をとくからであります。彼の哲學思想には剩餘價值論、唯物辯證法、唯物史觀、唯物社會觀等があり、これらは理論的に整然たるものではあるが、マルクスが云ふ如く假令正義觀、倫理觀に立脚しないとは云ふものの、其の後この思想を奉ずる者からしても、又マルクス・エングルスなどの言動などに依つても、下層階級へ同情してゐるのとが、冷靜に考ふれば隨所に見出される。

以上の様なわけではありますが、科學的社會主義思想は更に二つの潮流に分れてゐるのである。社會民主主義（修正

派）共產主義（レーニズム）が之であつて、ベルンштаイン・コーツキーは前者を眞先に稱道し、其の理論は佛英獨等の労働黨や社會黨の指導理論となつてゐます。其れは民主的な政治方法を採用し、下層階級の實力に相應した合法的手段によつて、權力を獲得せんとするものである。之に反して後者は等しくマルキシズムの理想を實現するものは云へ、政治的直接行動主義をとり、下層階級の獨裁政治を眼ざしてゐるものであります。一口にマルキシズムと申しましても、かうして判然と分かれるのであるから、この點を御諒解していただきたいと思ふ。従つて我國の思想問題・社會運動を指導してゐる社會思想はこの二者があることを充分承知する必要があるのであります。

かくも大なる勢力をもつて指導理論となつたマルキシズムは果して正しいものか否か？ この問題に就いて外國の經濟學者・哲學者の意見や、我國の學者達の意見を見ますと、總てが間違つてゐるとまでは言はずとも、到底とるに足りない陳腐な理論として皆否定の態度を取つてゐる様です。其れにも不拘、なほ大なる勢力をもつてゐるのは、果して如何なる原因に依るのであらうか？ それはこの思想

が我々の社會をより良く改造せんが爲の理論であり、而も現にロシアでは其れが着々實行されてゐると考へられる爲ではなからうか？ 然しかのロシアの様な社會狀態になるのが、果して人生社會の理想でありませうか？ 私はこの點に就いて良く考へて見たいと思ふ。

一體工業なら工業商業なら商業に勝手に進み得る様な自由を保つておく事や、親として子孫が樂になる様に考へることは人間の本性であつて、我々人間から到底切り放す事の出来ない感情ではありますまいか。人間は各人の生活様式について或程度の自由を欲するものであり、之は古來の感情で將來社會が進化するために、この感情が消滅するとは考へられないのであります。たゞ餘りに其れに執着し隣人の迷惑になる様なことは制限し得るであらうが。

でこれが急激なる社會の改造に賛し得ない理由であります。成程理想社會は美しい、がまかり間違ふと今まで折角築き上げて來た社會を土臺から瓦解してしまはなければならぬからです。

具體的方策は如何？ 將來の生望様式は如何と言ふことについて、マルキシズムが明確に示す事の出来ないのは甚

だ不安であり、不可である。而かもなほ之に對して多くの關心を持たれるのは、現實の生活に困つてゐる人のある世の中をより良いものに改造するといふ一點にある。所がさうするには必ずしもマルキシズムにのみよらずとも良ろしいではないか。他の思想に依つても社會の改造は期待し得るではないか。其の爲に社會政策は一の學術として研究されて來ましたし、其の應用が期待されてゐます。要するにマルキシズムの間違ひがはつきりしてゐないからだと思ひます。これが果して無産階級を解放し得るや否や等に就いては明後日慶大の川合教授からお話しがある筈だから、私は此の點に就いては深く觸れたくないと思ひます。

我が國思想運動の實際に徴して見ると、労働者、農民を始め、學生、大學、専門教育を受けた知識階級や、教育者などがマルキシズムに入つて行くのは、先づマルキシズムの誤れることが徹底してゐない事と、理論は唯マルキシズム一つしかないと思つてゐるのが原因である。そして、一つは彼等の宣傳誘惑が巧妙に行はれてゐるからである。

又現在生活に於ける不備及改造向上の希望から、隣人の悲惨を憐む情から知らず／＼共產主義思想の中へ引き入れら

れて行く者もあるのである。従つて私は特に共產主義一派の運動が如何に巧妙であるか。又如何にして發展して來たかに就いて述べよう。

先づ我が國思想問題の沿革であるが、現在の如き社會主義思想が何時頃入つて來たかと、言ふと大體歐洲大戰の頃からだと考へられる歐洲大戰は世界に對して色々な影響を與へた。我が國に對しても政治的、經濟的、思想的に大きな影響を與へたのでありますが、今日は其の中の思想的影響と經濟的影響に就いてお話し致す心算であります。思想的影響としては、デモクラシー思想が喧傳された事であり、之は民本主義の意で、本來は人民全體に依る政治であるが、現在では人民本位の政治の仕方を言ふのであります。一體歐洲大戰は獨の軍國主義と、佛のデモクラシーの衝突であつたと思はれるのであるが、其の結果はこの思想が世界に行きわたつたのである。我が國に於ては吉野作造、大山郁夫、福田德藏等により、種々なる手段を用ひて政治はよろしく人民本位にあるべし、と宣傳されたので當時「デモクラシー」なる言葉を知らなければ恥だと言はれる位津々浦々にまで行きわたつてゐた。其の結果は、國民

一般に對して社會主義思想に對する關心を醒び起したから其の頃から此の思想を研究するために種々なる文獻が盛んに輸入されるに至つたのであります。然しかゝる思想は必ずしも歐洲大戰後からではなく、遠く明治の初めの時代に於ても自由民權とか東洋社會黨などがありました。御承知の如く幸徳秋水一派の大逆事件がありました。社會主義に對する日本人全體の考へが恐ろしいものであると言ふ事を強く感じましたので、官憲の監視が嚴重になつて其の研究發表なども一時公然とする事が出来なかつたが、歐洲大戰の時代から前述の如くデモクラシーが普及されて其の後には公の新聞雜誌で堂々と論ぜられる様になつた。

この時に當つて大戰の結果好景氣となり、成金などが出來たが其の反面に於ては物價騰貴の爲に、労働者下層階級の生活は困難になつたのであります。資本家の懷中が豊かになつたのに下層階級が却つて苦しむのは、甚だ不合理であると言ふので、各地に労働爭議が起り勢ひ労働組合農民組合の成立が助成された。で其れらの指導をする爲にも社會思想の研究は必要となつたのであります。

大戰の外にロシアの革命も一の原因である。無産階級の

爲に彼等が自らの力によつて、而も最初に成功したと言ふので、其の影響は非常に大きかつたのであります。俺等も團結のしやうに依つては革命すら出來得るのだと言ふ感銘を受けたので、益々社會思想の研究が盛になつたのであります。それが元で大正七年八月米屋襲撃事件(富山)及び大正八年頃から起つた労働爭議が動機となつて、社會主義運動に力を添へたのであります。そして幾多の社會主義が共同戦線をはつて、之等の運動を指導しやうとしたのであります。

こゝに於て大正九年十月九日、日本社會主義同盟が樹立され様としたのであります。これには山川均、荒畑寒村、高畑素之、近藤健三等の人々が労働者、中等學生この問題に關心を有する代表者と會合したのであります。以上の人々は個的に見ると非常な差異を持つてゐるが、其の時には大同團結の下に企て様としたのであります。所が當時は、一般民衆には恐ろしいものと言ふ考へがあり、又一つには思想家の玩弄物と見なすものが多かつたので、それは終に失敗に終つたのであります。

我が國では一番初めの労働運動は、無政府主義を背景に

持つサンジカリズムと結び付いたのであります。之は政治的背景によらず、農民自身の經濟實力を基礎としてゐる思想で、其のために一時ストライキ・サボタージュなどが流行したのであります。が次第に馴れるに従つて、社會主義と言ふものは、それ程恐るべきものではないと言ふ事と、それが農民労働者の解放を目的としてゐる事が分つた爲に、漸次相互に因果關係をもつて、漸く板につく様になつたのであります。

で、かうなると自然に主義者達は、獨特の自由な立場を守つて來て、アナ(無政府主義)とボル、(マルキシズム社會民主主義)との抗争となつた。當時二つの雑誌が出てゐたが、一は山川均等の率ゆる「社會研究誌」であり、他の一は大杉榮、湯淺策太郎等の率ゆる「労働運動誌」である。この二つは次第に相容れない立場を取る様になつて來るのであります。

この抗争が表面化されたのが、大正十一年九月京都に於て「労働組合總聯合」を以て大同團結し様とした際に、衝突して何等まとまらない中に官憲の解散をうけたのであります。

さうかうする中に關東大震災や、甘粕事件、龜井戸、朴烈事件などで、大杉榮一派の無政府運動は全く力を失ひ、アナキズムはかうして、力を失つたまゝで現在に至つてゐるのであります。

かくて社會主義運動は、それ以後皆マルキシズムに吸収される様になつたのでありますが、これに就いてはロシヤの第三インターナショナルが世界的に宣傳した其の働きもあづかつて力あるのであります。

而るに、このマルキシズムの陣營内に於ても左右兩翼の對立があるのであります。

大正十三年以後は急に反動的な不景氣になつて、この種の社會運動は益々盛んになる傾向を持つて來たのであります。それ故労働爭議、小作爭議等が頻發しましたが、爭議團側の方法が當を得ず、而も過激にすぎたので、資本金側に切り崩されたり、其の他の原因で多く労働者側の失敗に歸して居ります。

こゝに着眼したのが山川均で、中央公論で方向轉換と言ふ事を主題とした論文を發表し、「社會運動は、どうしても大衆と共に運動しなければならぬ。本當の社會運動は要

するに質よりも量である。」と申して、餘り過激に進む事を戒しめた。其の爲同じマルキシズムでありながら、急進的

なるものに對立して漸進的立場をとる右翼を生じたのであります。この結果は大正十四年五月末友愛會の内部分裂となつて表はれたのであります。この時には幾つかの團體に分かれましたが、最も左翼と見なされるものは「日本労働組合評議會」でありました。この外にも團體として大正九年頃から賀川豊彦、杉山元次郎等に依つて率ゐられて來た「日本農民組合」などがあり、又大正十一年頃京都で成立した水平社などがありました。こう言ふ状態でありまして政治的には不戦論が叫ばれたり、無産政黨が成立したりしました。

一方大正十三年以降學生間に於て「學生社會科學聯合會」が出来、大體に於てマルキシズムを指導理論として進んで参りましたが、やはり右翼左翼の對立抗争を見せて居ります。其の争點は理想社會に到達する手段を、左翼は無産階級の獨裁政治を望み、暴力も敢て辭せずとするに對し、右翼は民主的政治に依つて社會主義の實現をはからふとし、實力相應の合法的手段に依らうとする點にあります。そし

て兩派は互に他を排斥し、同志を自己の陣營内に奪取せんとし、つとめて同志を糾合して、全國的の組織を持たうとし、其の間に相消長し轉換して來たのである。

左翼の手段は常に陰險である。これは非合法的手段によるからで、或地方の大同團結の離合集散などに、これが窺へるが、それらの事に就いては省略したいと思ふ。

現在の労働運動には、右翼としては「日本労働總同盟」「海軍労働總同盟」「勸業労働總同盟」「海員労働總同盟」等の十一團體があります。左翼としては、大正十三年内務大臣から解散を命ぜられた評議會の後身である。「日本労働組合全國協議會」「朝鮮労働總同盟」などがあり、「全國労働組合總同盟」「日本労働組合總同盟」などは其の中間に屬します。

農民運動の側では、右翼として「全日本農民組合」「山梨縣總同盟」等があり、左翼としては「全日本農民組合總同盟の青年部」がそれに屬すると云ふことである。そして中間派としては「全國農民組合」の大部分が屬する様である。

次に無産政黨に就いて申し上げますが、右翼には「社會

民衆黨」及「全國勞農大衆黨」があり、左翼には共產黨があるが、之は擧げるべきものでもないと思ひます。

次には學生運動であります。之には左右兩翼の抗争はありません。それは、大正十三年頃からマルキシズムを主張して、全體が左翼への動きを示してゐるからであります。駐足的な説明がありますが、これまでに社會主義思想の變遷の跡を述べて來ましたが、これらの運動に變化を與ふるもの、換言すれば原因となるものは、常に急進的である共產主義一派の活動であります。でありますから、私は、これから特に極左運動の一般的狀態に就いて述べて見たいと思ひます。

其の中心をなすものは、共產主義者の活動でありまして先づ共產黨の活動は何時頃からであるかと申し上げますと大正十年十二月早大「曉民共產黨」(近藤榮三(等計八名)の發覺である。次に大正十二年六月に發覺した第一次日本共產黨事件であります。前述の曉民共產黨事件には未だロシヤとの連絡は無かつたのであるが、この時に於ては、明からに第三インターナショナル(コミンテルン)との具體的連絡があつた。そして世界的共產黨としてコミンテルン日本支部と

呼んでゐた。其の中心分子は堺利彦、山川均等二十八名であつた。これは未だ具體的活動に至らずして檢舉されてしまつた。

其の後山川イズムと福本イズムとの争ひなどがありましたが、やがて第二次日本共産黨組織を企て様とした様ですが、大正十五年十二月山形縣五色温泉で樹立された由であります。然し具體的活動は昭和三年の始め頃、即ち普選施行第一回に際して、其の頃の國民間に無産階級の社會意識が高まつてゐる事と、上下を擧げて、心を普選に奪はれ官憲の手薄すの時に乘じて表はれて來たのであります。

昭和三年三月十五日に檢舉された所謂三・一五事件が起きました。此の時の起訴は四八八名に上ると言はれて居ります。然しこの時共産青年同盟の幹部である佐野學等は巧に逃れて、之が再建を企てたのであります。

この頃になると、官憲の方も次々に陰謀を發いて行く様になりましたが、共産黨の方でも潜行的になつて同年末には相當強固な組織が成立した様であります。

昭和四年四月十六日に至つて、所謂四・一六事件が起つたのであります。こゝに於て第二次の日本共産黨は一網打

盡的に根本から壊滅してしまつたのであります。この時起訴された者は八三〇名であり、其の内學生々徒と看做すべき者は、約二四七名でありました。其の時に、僅かに逃れた者がありまして、第三次の共産黨が計畫されるに至るのであります。

其の主な人物は田中清玄、佐野博、全納善四郎等であります。此の第三次の者も大部分檢舉され、昭和五年二月二十日に起訴されました。此の間に於て、彼等の根據地も、關東から關西に移すことを餘儀なくされ、和歌山、大阪、兵庫等にあつた様であります。この三縣で大部分の者は檢舉せられたのであります。田中清玄は逃れて、東京に舞戻り、東京市電の争議を煽動したり、車庫焼打、幹部暗殺等を計畫したり、或は川崎市のメーデーに竹槍等を持つて狂暴化せんとし、あはよくば全國的に暴動に捲き込まふと計畫したのである。然し其の田中清玄も昭和五年七月東京府下に於て捕へられてしまつた。

それから後本年に至つて大阪を中心とする五縣にわたる共産黨事件が八月頃に起きた様であるが、之に就いては記事差止めになつてゐるから、今申し上げるわけには行きません。考へて見まするに、以上の様に共産黨は凡そ五つの

大事件を捲き起して居るのであるが、今後も相當の間、この様な事件が繰返されるものと思ひます。即ち次々に何處からともなく中心分子が現はれて、全國的に波及して行くものと思はれます。

こゝで共産黨と言ふ事に就いて申し上げて見たいと思ひます。第二次日本共産黨事件以來第三インターナショナルの日本支部となつてゐるのであるから、本部の命令は絶體服従である。従つて其の十三ヶ條より成る綱領も本部が認めてゐるのである。要するに私有財産制をやめて、無産階級の獨裁政治をなす權利獲得にあるのである。

其の組織の基本をなすものは、コミンテルンの決議により、工場勤務の労働者の細胞である。これを工場細胞と言ふ。工場細胞は一つの細胞の中に四、五人乃至十二、三人を含み、其の細胞の集りを班と言ひ、班が大きくなると、地區をなし、更に其の地區が、地方委員會を形成し、それを統一するものが中央部である。其の中に執行委員會と専門部、書記部とがある。又例外ではありますが、所謂街頭細胞と言はれるものがあります。街頭とは巷の意味で、要するに工場以外の場所に細胞を作らふと言ふのであります。

其の外にフлакシオンと言ふものがありますが、これは合法的團體に對して漸次共産黨化して行く様に運動して行くもので共産黨の一要素である。

共産黨の機關紙には「赤旗」と言ふものがあり、これは黨員だけに配布されるものであるから、これを配布される事は黨員としての名譽であるとされてゐる。又準備機關紙としては「第二無産者新聞」がある。これは一般大衆に宣傳するものである。共産黨自身が非合法的な存在である以上、それ自體の運動は一般大衆には見えないものである。共産黨の活動は黨員の獲得及び外廓團體を指導すること

革命の準備を整へる事などが、其の本體であらうと考へられる。然しながら各種の共産主義系統の運動の指導者であるから、其の場合に於ける戦術などは、絶對的に行はれる黨員の獲得は細かには分らぬが、あらゆる機會事情等を捉へる様である。たとへば或人は不平不満を持つてゐるかどうかを窺つて、不満があればそれに同情し、其の不平の表はし方を指導し、又讀書好きの者には新らしい書籍や、珍らしい物を貸し與へて、之を讀ませ、若し其の諒解が六ヶ敷いと思はれる場合は、自分も共に研究する態度をとり

研究部、讀書會等を設けて、漸次に其の思想を深く吸収する様にし、かくして外廓團體或は其の他の組織の中に取り入れたならば其の者が其の所屬の中で、如何に活躍するかを観察して、其の活動が綿密周到で黨員として敏活且資本主義に對する争闘心が強いと認めた時には、エイデェント（候補者）として遇し、一定の期間が過ぎると共產黨員として許すことになる。然し急速に黨員を必要とする場合には前述の順序によらないで黨員とする場合もある。

共產黨の運動は多く匿れたる地下運動である。そして擴大強化をはかる場合には各種の機關によつて爲すわけである。たとへば「選舉闘争同盟」であるとか、又は中央幹部部を中心とする「公判闘争委員會」の様なものである。要するに別個な大衆の團體を臨時に作り、それによつて爲すのである。

此處に共產黨と同一視して良い「共產青年同盟」がある。普通に黨同盟とひつくるめて言つてゐるが、この同盟の方はロシアの國際共產青年同盟（キイム）をまねたものでロシアには年齢の制限があるが、我が國には無い様である。其の始つた時期は彼等の言に依れば大正十二年頃から

と言つてゐるが、其の黨首たるべき者で、大震災の時に死

亡した者があつたために、一時其の運動を中止してゐたが大正十四年の中頃から漸く眼に付いて來た。これは將來共產黨員となるべき分子の集りで、全日本無産青年同盟と云ふ合法的組織の陰にかくれて、活動してゐたものである。運動はやゝ極左的であつて、三・一五事件に於て、詰社禁止となつたものである。にも拘らず昭和二年八月には「關西委員會」が成立し、同じく十二月には「關東委員會」が成立してゐる。それらの沿革消長は共產黨と同じである。

この同盟に就いて特に注意しておきたいのは、學生運動との關係である。この團體運動の指導の下に學生運動が發達して來てゐるのである。故に學生運動に就いては是非とも、この青年同盟の組織に就いて、知らねばならない。

以上我が國の極左運動の二團體、即ち黨同盟の外に、外廓團體が五つ挙げられます。反帝同盟（モツプル）・日本赤色救援會・無新（第二無産者新聞）・無青（無産青年新聞）・全協（日本労働組合全國協議會）等であります。

午後之部

午前中は我が國極左社會主義運動に就いて申し上げました

が唯今から、黨同盟以外の五つの外廓運動について申し上げます。

第一のものは反帝同盟でありまして、一九二七年二月即ち昭和二年ベルギーのブラツセルに於て、開催されたのを機會として日本に支部を昭和四年十一月七日（ロシアの革命記念日）に設けられた事になつてゐるものであつて、此の前身と稱すべきものは昭和二年五月卅一日に成立せる對支非干涉同盟を最初とし對支非干涉同盟のみにはかゝらず一般に戦争に反對するやうになつた。戦争は帝國主義によつて起るものであつて、資本家の利益を擁護し、擴張するものでそれによつて得る所のない者は無産者である。故に之に反對する反戰同盟と言ふもので昭和三年七月末に成立した。かゝる運動は帝、早、慶等の學生が中心となり、進められた。それが特に世界的の運動になつたのは、前述の日本支部が確立されてからである。此の同盟の目的とする所は一切の反帝國主義は行動を採り、特に戦争に反對し若し一旦戦争の起つた場合には國內を内亂の巷と化し、共產主義の社會としやうとする。又民族の獨立を認めるものであるから、殖民地は解放すべしと主張してゐる。その機

關紙としては反帝ニュースを出版したが、後には反帝新聞として（昭和五年十一月）文書を中心とする宣傳をなし、特に著しい行動をなさぬが學生を同志としてゐる、のみならず最近に於ては、更に農民労働者一般社會人に迄其の範圍を擴張しつゝあるが故に特に注目せらるゝ譯である。第二の運動は通常モツプルと稱せらるゝ日本赤色救援會の運動であり、之は國際的にはモスコに國際救援會があり、我が國に支部を設けられたのは昭和五年八月であつた。之にも前身と見なされるものがあり、それは解放運動犠牲者救援會といふものであり、千葉縣の野田醬油會社の労働爭議に於て労働者の家族の生活に困難を感じる者や、又警察に檢束された之等の犠牲者を救援せねばならぬといふ、超黨派的な救援會が組織されねばならぬと考へられて、昭和三年四月七日其れが成立した。所が其救援は其の時あだかも起つた三・一五事件の左翼分子への救援に向けられて、其他の方面には向けられなかつたので、遂に右翼の者は脱會してしまつた。そして其の後には極左だけが残つたのである。翌四・一六事件に於ては、此の救援會幹部の中からも起訴をされた者が出るやうになり、會は全く極左と見な

される事になつた。昭和五年八月文書大會（議案を先にまはして賛否を決するもの）を行ひ、こゝに名稱からして明かに極左となつた。之も其の下で働く者は學生生徒其の他知識階級に屬する者が大分多い。之は反帝同盟と同じやうに其の運動方法はニュース及びビラ等で文書宣傳をなすものである。

共產黨公判闘争委員會等を組織して會員を募り救済資金を集め差入れ及び家族の救助をなすのである。之に就いて特に注意すべき事は犠牲者を救ふといふ事を表看板にしてゐる爲に世間見すの學生生徒婦人などの其の同情的なもちかけ方で誘はれる事から始めは五十銭なり一圓なり出す事がきつかけで次第に此の運動に深く引入られて行く事になることである。即ち此の運動の最初の段階にはいつて行くのに利用される。

次に無新と申しますのは日本共產黨の準機關紙たる第二無産者新聞を支持して發展せしむる事が主な目的の團體である。其の記事内容は急激であり、其の中には指令も載せられてゐるので公にされると早速發行禁止となるから之が發行はひそかに行はれる。其の新聞配布及び料金の徴収な

どをなす爲に全國的にP、N又はPの組織網が造られてゐるものと考へられる。之は學校内等で密かに發行され其の部数は大略六七千内外であり、多い時には二萬にも達してゐると言はれてゐる。申しおくれましたが、此の新聞の前身は無産者新聞と稱せられ大正十四年二月頃から、發行せられたもので第二次日本共產黨同盟を基礎づけるものとして、保證金を納め合法的なものとして成立してゐたが、遂には之が發行禁止されるに至つた。其の後昭和五年八月三十日から、第二無産者新聞と名前を變へて今日に及んでゐる其の幹部には帝大出身の學生を中心とし其の他知識階級の者が之を占めてゐる。然し無新の發行所等は次々に發覺されて最近では關西方面に移つてしかも謄寫刷にして漸く發行してゐるやうである。

次に無産青年新聞であります、之はY、N又は單にYと言つてゐるやうです。最初昭和三年四月十日に結社を禁止された全日本無産青年同盟の再組織の爲、新青年同盟組織準備會の機關紙として發行せられたものであるが、其の後財政上の困難の爲一時發行を停止してゐたが、昭和四年三月十五日から再刊されたものである。責任者は佐野博

立山利忠等であり、労働者農民、學生、生徒等に働きかけ多數の同志を引入れやうとしてゐたものである。發行部數は無新とほぼ同數にて十日目毎に出てゐる。現在其の中心は無新が帝大出身者が多いのに對して無青の方は早大出身者が多い。

無青に就いて特に注意すべき事柄は昭和五年中頃から、盛んに叫ばれた赤色スポーツと言ふことである。此の赤色スポーツに就いて申しますと、ロシアでは此の特別の組織があるさうですが、我が國では唯單に一般狀勢がスポーツを歓迎するので其處に目をつけて叫ばれた事であります。現在のスポーツはブルジョアのスポーツであるから、我々は我々のスポーツを建設して無産階級同志間の親密をはからうといふのが其の主旨である。

さて最後は日本労働組合全國協議會であります。之は昭和三年九月八日に出来上つたもので、其の前身は大正十四年五月末日本労働總同盟から分離したあの評議會であります。評議會は結社禁止の厄に遇ひましたが、其の再組織を圖らうとして此處に前述の全協が出来たのであります。其處で一言つけ加へておきたいのは、前身の日本労働組合評

議會は正式にロシアのプロフインターに加盟して其の支部になつてゐましたので、其の後身たる全協もやはり正式に承認されてゐるのであります。其の組織に於ては資本主義に對して最も強い憎惡を感じてゐる工場労働者が其の中心となるべきであるとされてゐる。四・一六事件以後は一時勢力がおとろへたが、昭和五年三月を期し全協の組織の大改革をしてから、再び勢力をもちかへして來たのである。其の際内部に起つた全協刷新同盟の全國的單一産業別組織が實行され、此處に金屬、出版、化學、織維、通信、交通一般使用人、映畫等十三の外に失業者同盟を加へて合計十四になつた。しかる本年五月に至つて更に組織を變更し一般使用人組合の中に醫務、映畫、教育等の労働組合を包含し結局十四のものが此の以後十一になつたのである。機關紙としては労働新聞を發行して文書による。宣傳を本體としてゐるが事實は狂暴手段に出でた事もあつた。例へば昨年の川崎におけるメーデーに際して、之を暴動化し、宜憲の檢舉に對して暴力を以て、之に反抗し兇器等を用ひて致命傷をも與へたのは、此の仲間がやつたものなりと考へる。之は共產黨と同じ立場に立つて、其の指令に絶対に服従し

共產黨と其の死生を共にして行動をなすといふ事に關しては注目すべきである。

眼を轉じて學生方面を見るに、各學校内には學生全協支持團が組織されつゝあるが、これは本年春頃から、全協を以て我が國唯一の理想的社會運動であると考へられて來たからである。學生達は支持の方法として、各自の學費を節約してこれに財政的援助を與へ或は自己の下宿を會合所やかくれ家に提供するか、又は郵便物を届ける事など要するに單に好意を持つてやれば簡單に出來得る事務的救助をなしたり、又技術的援助と見られる次の様な事となしてゐる。即ち謄寫版の原紙を書いたり、印刷をしたりするのである。かうして技術の準備に力を提供する以外に最後には親邊の人物を労働團體に對する同情者として獲得せんとするのである。最初の中は東京で A、B、C、D の四地區を以て其の地區にある、各大學及び専門學校を含む組織であつたが、其の後全國的に波及しつゝある様に考へられます。

一體黨同盟が盛んな時には、外廓運動は大した華やかさを持たないが、今日の様に黨同盟がひそんでゐる時は、彼

等は主として外廓運動を通じて、其の運動及び目的を遂げ様とするので外廓運動が重要視されるのであります。即ち黨同盟に近づく爲には必ず外廓團體を経由しなければならぬといふ密接な關係を持つてゐるのであります。これまでに大部分の外廓團體を御説明しましたが、まだ外に其れに近い團體があるのであります。次にはそれら諸團體について申しあげたいと思ひます。

無産者文化團體と呼ぶと先づ全日本無産者藝術團體協議會（ナツプ）と労働藝術家聯盟とであります、がその中のナツプが大なる影響を與へてゐる様であります。ナツプは昭和三年四月に組織されたもので、其の専門部には文學部、映畫部、音楽部がございます。そして現在では日本プロレタリア作家同盟（P・L）日本プロレタリア劇場同盟、日本プロレタリア美術家同盟（P・P）日本プロレタリア音楽家同盟（P・M）日本プロレタリア映畫同盟（P・K）等があり、最近に至つて日本プロキノから日本プロレタリア寫真同盟（プロホト）が分裂した。之等の各同盟から二名宛の代表者を出して其の協議會がナツプといふ中央機關によつて結合統合されてゐるのである。

ナツプの綱領を申し上げますと、プロレタリア藝術の組織的發展、解放、専門的暴壓反對をモットーとしてゐるが要するにブルジョア藝術を排斥し、プロレタリア・イデオロギーをもつた藝術を盛んにし、一般大衆に階級闘争心をふき込み之を啓發する點にあると見られる。

其の機關雜誌としては戦旗が發行されてゐる。之は勇猛すぎる程な活動をなし非常に巧妙な手段で讀者を獲得することに成功した。其の後昭和五年九月に至つて、ナツプより獨立して戦旗社を設け一の大衆運動として活動するやうになつたものである。其の後其の機關雜誌として「ナツプ」が發行されるに至つた。

次に「ナツプ」の活動について申し上げますが、藝術の各分野に於て「ナツプの夕」或は「戦旗の夕」などと稱する催しをなして藝術愛好心を通じて階級意識を宣傳してゐるのであります。最近聞く所によりますと「ドラマリーグ」「ドラマサークル」などと稱してキネマ及び劇場などで觀客者に有料又は無料で入場切符を配布するやうな手段もとられてゐるやうであります。尙「ナツプ」につきましては「シンパサイザー」（同情者）と申す者が澤山にございま

す。が之は黨同盟等がロシヤの本部と連絡が切れた場合等に處する爲に平生から、豫め金錢の提供をなしたり、身を匿したりする際の保護者等であります。諸君も檢舉されましたことによつて御承知の様に例へば、片岡鐵兵は大阪で起訴されて年の懲役に處せられたと聞いております。

戦旗社からは昭和四年五月頃から、少年戦旗も出版し續いて本年五、六月頃から婦人戦旗も出版して居ります。其の上「ナツプ」の出版も引き受けてゐて一つの出版會社のやうになつて居ります。雜誌少年戦旗並に戦旗の影響は、農村及び労働者階級の青少年に對して想像以上に大なるものがあるやうに思はれる。學生の左傾の経路は、彼等の告白其の他種々なる證據に依れば、殆どこれ等にあるやうに思はれる。特に此の點は地方に於て、教育に従事してゐる諸君におかれましては一層注意して頂きたいのであります。

定評ある戦旗の讀者獲得法は各同盟が各地方に於て、講演其の他種々なる會合をなしたる場合には其の記念として戦旗讀書研究會等を必ず設置するやうにしてゐる。それから各地に支局の設置が試みられてゐる。そういう譯で一時期

は讀者数が四五萬に上つたさうである。其の原因は先づ發賣禁止をうまくまぬかれるといふ事にある。所が最近に於ては財政窮乏に立至つて「戦旗六、七月號等」と二月一度に發行したりして漸く糊塗してゐる。因に先頃印刷費として二萬圓訴訟さへ起されてゐる状態にある。

新興教育研究所は、昭和五年八月頃から山下督二、淺野賢二等が主宰し雑誌新興教育を出してゐますが、特に教育者諸君に關係ある事柄ですから、後にくわしく申し上げます。外に秋田雨雀の主宰する、プロレタリア科學研究所があり、プロレタリア科學といふ雑誌を發行してゐる等尙エスペラントを以つて結びついてゐる。日本プロレタリア・エスペラント同盟もあります。其の他日本プロレタリア詩人同盟、日本戰國的無神論者同盟等がある。

日本戰國的無神論者同盟は、秋田雨雀、川口定彦等が率ひて其の結成大會には申し込みだけでも四、五萬に上つてゐる。目的は既存宗教の打破にあります。同じく既存宗教の打破を目指すものに此の別派と見なされる日本反宗教運動があり高津正道が率ゐて居ります。

極最近になりました「ナツプ」以下の大同團結をなさん

動が行はれるやうになつて來た。

公私立大學及び高等専門學校の學生、生徒の此の運動の大略を申し上げますと、大體三期に分けることが出来ます第一期と申しますのは、研究團體時代と申すべき時期で大正七年には東京帝大學生の組織する新人會が生れ、又早大には曉民會が生れた其の他高等學校、私立大學等にも各種社會思想團體が發達しそれが大正十三年頃になると全國的に廣まつた。而して大正十三年九月に至り東京帝大控室に於ける發議が動機となり、日本學生社會科學聯合會が成立し全國的にマルキシズムに依る統一が行はれた。即ち學聯時代と稱して第二期に屬するものである。此の時期が昭和四年十一月に至つて、有名な學聯の戰國的解體が起つてから、後を第三期と見なしたい。此の解體は京都大學事件に關聯して學聯の幹部が檢舉された事に因を發する。即ち一つには統率者の無くなつた事と、其れ以上の理由として最早假面のもとに運動する必要なく、直接共產黨の指令を受けて活躍せんとするにある。此の後の時期を實際運動進出時代又は非合法運動時代とも稱せられるのであります。

以上申し上げた事を更に内容的に見ますと、第一期は社

とする、日本プロレタリア文化聯盟といふものが生れました。之は十八の團體から成り、其の中には産兒制限同盟(P・B・C)等があります。其の目的はプロ文化を啓蒙することにあるが、此の聯盟が出来た動機を申し上げますと昨年のプロフインタン大會で刺戟された結果であります。即ち此の大會に於て日本の無產文化運動が割合に發達しないのは、團體が不統一である事に大きな原因があるといはれた忠告に目覺めたからであります。其の結成準備委員會は新聞紙の傳へる所によりますと、名譽會員にゴリーキーやバルビューズ或は片山潜等がなつてゐます。或は其の組織を青年婦人、少年、農民の四つに分けて等して、計畫によると十月中に結成されるといふ事であつたが、結局十一月に持ちこされたのであろう。まだ聞いて居りません。

以上で直接關係に於て共產黨活動を援助する、組織運動の大體を申し述べたつもりであります。

次に教育關係の思想運動を申し上げますと、昭和四年頃までは單に學生教授等の研究する範圍に留つてゐたのであります。昨年から中等學校、青、少年團等に迄其の範圍が擴張され、極最近には一部教職員の間にも之が運

會科學研究に熱中した時代であります。それから學生が工場等にもぐり労働者運動の先驅をなして、所謂プロレットカールに進出したのであります。即ち無產啓蒙運動のもとに學生が指導した時代なのであります。第二期は學聯の指導精神を主旨としてゐた時代で、此の時期の終りに京都帝大事件が起つたのであります。此の京大事件は我が國最初の治安維持法にふれたものであります。第三期は直接黨同盟の指揮を受けて今日に至つてゐるのであります。

さてここで學聯解體についてもう少し了解して頂きたいと思ひます。學聯解體の理由は、もはや研究團體といふ假面を被つてゐても仕方がないし、其の上京大事件に於て幹部が檢舉されて行くのであるから、それならばといふのが一つの理由である。第二には無產階級解放には中心勢力に統一されて行かなければならないので學聯があるのは寧ろ有害である。第三には四・一六事件で黨同盟の活動分子が滅びてしまつたから、其の補充を速になす爲である。

以上の主旨は昭和四年四月四日發行の無產青年新聞に依つて發表された論文によつて明かである。此の論文を「學生テーゼ」(要項の意)と呼んでゐる。本年にはいつて無

産青年新聞にまた「革命的青年學生の任務」と題する論文が、發表されたが之は大體前の學生テーゼの補充をなしてゐるもので、更により一層有効に共產主義化して行かうとしてゐる。かく考へて見ますと將來の活動方法をテルンを中心とした非法學生聯盟に進み、讀書會(R・S)學内班を作らうとしてゐる様である。讀書會は闘士養成を目的とし學内班は、外廓運動の一つとして組織せんとしてゐるものである。

昭和五年に入ると急激に學生生徒の檢舉されるものが増加し、従つて思想事件が頻發しました。統計によれば昭和四年の九〇件が一躍二八三件になり、各學校に於て譴責、諭旨退學、退學等が三〇〇名であつたのが昭和五年には七三五名に増加してゐます。四・一六事件では起訴せられたものが百一名それが昭和五年には一九〇名に上つてゐる。

かういふ状態で來たが昭和五年二月田中清玄が「共產青年同盟」の組織を改革せんとした時、八〇%のインテリゲンチユアーが混つてゐるのでそれを信頼せず、學生グループを一齊に除名して了つた。そして唯單に「エイデント・グ」として認めたるに過ぎない。で其の後は「エイデント・グ

ループ」が各學校に存在したのであります。だが昭和五年の失敗でこの事の非を悟り、今日に至つては大部態度が違つてゐます。即ち昨年十二月に發行された無産青年新聞では、苟も共產黨精神に則るものは「インテリ」でも黨員として認めやうといふ事が論ぜられてゐるのであります。かくて學生の學校に對する不平不満を利用し、學生自治會を作り之を通して學校細胞をつくるのであります。學生の運動形式は黨同盟の技術部員としてビラ撒「プリント」書き新聞雜誌の配布又學内運動としては校内秘密組織の暴露、「ストライキ」や學校騷擾等の指導とであります。而して一般學生は其の背後に極左分子の計畫的な煽動があるといふ事を知らない者が多いのである。共產黨は學生大衆と學校の機能を破壊しやうとしてゐるし、學校内騷動の種類としては、校友會改革を目的とするもの消費組合を設ける事を目的とするもの學友會費の低下を目的とするもの、處分輕減を目的とするもの等あるが「ストライキ」が何時も有効なのは定評がある。この間に窺はれる事に依ると如何に共產黨が機を見るに敏であるかゞわかるのであります。即ち共產黨は指令的に如何なる機會に生徒大會を開くべきか

又如何なる議題を提出すべきかに迄容喙してゐるが、最近ストライキをやつてもつまらないと考へて來た様である。それは除名になつたり、又よく氣を付けないと陰に赤い手が伸びてゐると云ふ事が一般に良く分つて來たからであるで學生の思想運動に連座する者を見ますに、以前よりも甚だ知識の程度が低下してゐるやうである。

次に中等學校關係の運動を見ますと、昭和四年には五件同五年には十一件本年に至つて八件を出して居ります。一般に之等生徒の共產思想の意識程度は幼稚であり、従つて運動は受動的に行はれる。故にさほど心配すべきこともないと思ふが、單獨的な活動から寧ろ秘密結社的な組織をとる者もあるやうになつて來た事は、一寸考へねばならぬ事であります。事件の原因を申し上げれば、プロレタリア文學を讀んでそれを模倣するやうになる場合や、又學校同窓の前輩で常に尊敬する人物から聞かされて、正しと考へる場合或は家族の兄弟の關係から兄の共產主義運動を眞似てやる場合など色々あるのであります。特に申し上げる迄もないが師範學校においては此の運動は一層危険な位置にあると申さねばなりません。

次に青少年團體に對して申上げますと、之等の團體の活動は昭和五年度以後に目立つて來たものであります。

青年團體の活動としては自主派、官制派の對立となつて其の間の不調和を起してゐるのであります。少年團體としては、一つに勞働少年團といはれて居るもので、之が具體的な事件としては、新潟縣下及び東京府下大島に於けるものが主な例であります。これらはロシヤの「ピオニール」の組織をまねたものであり「地主といふ者は憎らしい者である」と云ふ事を少年達に教へ込み資本家本位の現在の學校教育には入學せしめずと、なして共產主義による特種の教育を施して其の教材としては少年戦旗等が用ひられてゐる。而して事件の數としては餘りない。

最後に教職員關係の事件でありますが、大學、専門、高等の教員としては、此の方面にシンパサイザーとして屬々云々された者は少なくない。而していづれも個人的獨自な立場である。教職員としての事件の發生は未だないやうである一體其の人の左傾の標準を見定めることは、仲々むづかしい事であつて一概に赤い先生といふ如き噂で問題をかたづける事は出來ない。

次は中等學校教員の左傾思想であるが、高等學校及び大學豫科あたりでよく聞くことで、思想問題を起す學生は或一定の中等學校から來た者に限つてゐる。そこで校友會雜誌等を調べて見ても何も變つたことは載つてない。而し考へやうに依りましては、其の學校の氣分といふものが無言の裡に働いてそいつたものを起させるものであらうと思ふ。これにつきましては將來研究して見たいと思つてゐる。

小學校、教員としての左傾は昭和四年の頃までは、事件として現はれず、昭和五年の始め東京府下に小學校教員聯盟に於ける秘密結社の發覺を始めとして漸次全國的に現はれて來たものである。小學校教員の左傾を見ると、單純に個人及び社會人としてシンパサイザーとなり、勞働團體に加名する等の行動をとる外、更に注目すべきは教員としての事件發生を見てゐる。昭和五年六月新潟縣に教育勞働組合事件があつた。

さて問題の發生は新興教育研究所を通じてなされる活動である。昭和五年四月東京府下小學校教員聯盟の十二名の教員が退職させられた時に於て、其の真相を發表する爲に前任地である八王子市に於て大會を開き、其の序に全日本

教員組合組織準備會を設け弱き小學校教員救済の爲と稱して檄を飛ばしたが集つた者が少なかつた。

そこでもう少し理論的になされねばならぬといふので、方面を變へて山下督次、淺野健二等が中心となり、新興教育研究所を設け教育再吟味の時代として、プロレタリア・イデオロギーによる教育を起さんとした。そして漸次理論の研究をなし體系を整へた。ニュースを通してそれを見ますと「教員階級の解放は一般無産階級の解放と手を取りあつて應援をし、援助し提携してのみ可能となる。で共產主義運動と合流しなければならぬのは、火を見るよりも明らかである。故に教員は無産者の開放運動に雙手を舉げて賛成すべきである」と考へた。

其の新興教育運動の結果は豊島師範のストライキとなつて、又文理科大學に於ける新興教育學内班の發覺をみ、山口縣師範の學内班が發見された。又典型的なものとしては京都府下に於て山下督次の文藝講演會に端を發し、新興教育支局の設置發見となつた。これによると京都府下に關係學校は二十校、檢舉者は二十九名に上つてゐる。新興教育によつて啓發された教育は結局教育勞働者として組織をつ

つて勞働運動へ合流せねばならぬと主張し獎勵してゐる。

之について山口金次、増淵讓等が東京府及び埼玉縣支部を設けて其の組織を全協に見ならひ、或程度の關係を結んで獨立して内密的に結社してゐたらしい。而し其の運動も目醒しなかつたが、時恰も全協の組織の改革に當つて本年三月三十一日に日本一般使用人組合に合流して、組織を改革したのではないかと思はれる。如何にして組合員を獲得するかを述べると組合員自身が學校内の模範訓導として他の教員の信用を博し、又立派な地位を保ち放課後等の雑談に於て仲間教員の階級意識の程度を知り、次に各教員の不平不満を巧に捕へ組合員として信頼し得るに充分だと考へられた時新興教育を貸し與へて援助を與へ漸次的に引入れて、更に組合運動の必要を解き最後には、讀書會、座談會などを催すやうにして黨員を獲得すべしとかなり最もらしく書かれてゐる。

此の支部の事件として本年八月東京市で街頭連絡をしてゐる教員が取りおさへられたことがある。街頭連絡といふのは何等挨拶もなく他人に品物を授與することであります此の時關係した學校は二十六校教員數は四十六名に上つて

ゐる。これに依つて判明した東京府下の組織は、四分會を置き更に其の各を十八に分けてゐる。處分の主だつた者は約十三名が諷旨退職になり其他の者は嚴重に説諭された。

次に埼玉支部の事件であるが、關係學校は二十三校で處分を受けた者は七、八名に及んでゐる。此の組織は全國にのびてゐるといふが其後は幸に今の處見あたりません。機關雜誌としては教育勞働者といふのを出してゐましたが今は明かではありません。

私が感じます事は、之に加名する者が殆ど青年教員であり、尙又漠然とした意味あひで、それをやつてゐて後になつて其の人々と話し合つて見ると、後悔する程度が深いことを思ふのであります。それにしても極左の手がどう伸びようとしてゐるかを知り、つまらぬ間違ひをしないやうにして戴きたいものです。丁度無産階級の解放がなか／＼たやすくは行かないからといつて共產主義を手段に選ぶといふ事は餘りにも過激、輕率であると同様に教員の地位向上をかはる爲にこの種の手段を採る事は、過激、輕率であるから注意して頂きたいものです。

一體普選が實行されてゐても、其の効力があまりにも發

揮されてゐない現状であります。その爲に本當に自分達多數の人民の爲の代人が議會に送られてゐない有様である。こういう様に既にゆるされてゐる制度、手段、組織の使用すらやりもせず一方には、理論すらも知らず露西亞の實狀を見ても成功とは見られぬ此の共產運動に卷込まれて行くといふ事は餘りにも輕卒ではなからうか。

そこで赤化の手段をよく知つておらねばなりません、いはれなくして自己の不滿意境に同情して來る態度を示す者には、一應疑つて考へて見る必要である。又救済金等を求めて來る者も、其他一寸品物をおいてくれとか一寸留めてくれとか。アド（アドレス）と稱する一寸郵便物を頼まてくれとか。又レボ（レポーター）と稱する一寸連絡してくれとかいふものには考へてみる必要がある。其の他も少し擧げるならばビラ撒を頼まれたり、街頭連絡の見張を頼まれたり何によらず、おしつけがましい事には一應疑つて見なければならぬ。兎に角何もしない形をとつて陰には黨同盟に合流せしめようとする毒手がかくされてゐることが多いのであります。世にはブルデューアのみならず力強い中産階級もあることをよく考へて頂きたい、そして

教員諸君はもつと／＼堅實で深重な態度をもつて世の改造地位の向上に盡力すべきであると思ひます。
極めて粗雑な上に長時間に渡りましたが、私の講演を終ります。（文責記者）（完）

佐藤善治郎氏再度の歐米漫遊

神奈川高等女學校長佐藤善治郎先生は、最近自校の根本經營を大衆の福利に置くべく、財團法人組織に改め、社會奉仕の觀念を教育の根柢とすると共に、一面時運に順應すべき基礎を確立したのであるが、近く創立二十年記念も到來することとて、茲に一層教育の進展に資すべく、世界漫遊の途に上らるゝこととなつたと云ふ、今回は横濱解纜より臺灣、ヂヤバ、呂宋、シンガポールを経て、印度洋を横斷、南亞を廻航して一先づ南米、リオデジャネーロに上陸、日本人殖民地を各所訪ね、北上してアマゾン河地方を探險し、それより大西洋を航して、リスボン市を経て、佛國パリに遊び、更に轉じて伊太利に入りて、ムツソリーニを訪ひ、彼の國家主義の實際運動を目撃し、十月再び英國に歸り舊知の外人を訪問して少時滞在、歸路はシベリヤ鐵道によりて歸朝せらるゝ由。出發期は本年六月下旬ならむと云ふ。

情 報



教育會々報

理事會狀況

一、一月九日理事會問題は、本會事務所を友松會館内に移轉する事でありました。多少の異論もありましたが、一先、他府縣教育會狀況を視察してからと、埼玉、千葉の二縣を選定して散會しました。

二、一月十五日、豫定通、視察團は出發しました。

千葉縣方面

守屋貫雅、坂田 祐、結城權兵衛、齋藤元近、曾

根藤三、佐々木章治、諸氏

埼玉縣方面

河邊良平、荻田萬一郎、高城 研、福田隆太郎、

諸氏

三、二十七日、友松館にて視察報告會あり、本會事務所を廳内の別室に探すことを、懇請してみることと常務理事の設置を談し合ひ散會しました。

四、二月九日

常務係理事として、瀧澤又市、坂田 祐、齋藤元近、曾根藤三、秋山岩吉、守屋貫雅、荻田萬一郎諸氏を依頼し、本日の常務理事會に於いて、役員選舉に關する規約改正を附議しました。

會計係から

昭和六年度「神奈川縣教育」雜誌代金貳圓五拾錢、當月から集金致します。請求書は別に差出しますが、なるべくは縣に御出張の序に御收めを願ひます。



地理科訓導研究協議會

會場校 川崎市川崎高等小學校

一、日時 昭和六年十一月二十八日(土曜)

二、講師 東京高等師範學校教授 内田寛一先生

一、參會者 横濱、横須賀、川崎、久良岐、橋樹、都筑、三浦、津久井

以上三市五郡 地理科研究主任一五六名

其他 四一名 會場校職員

神奈川縣廳教務課

河邊課長、守屋視學、森屋視學、龜ヶ谷

視學

次第

一、開會 (午前九時二十分)

三、協議會

二、實地授業參觀

一同參觀

授業大要左の如し

學年	教材	教授者
高一男	瑞西	山本訓導
高一女	佛蘭西	郡山訓導
高二男	川崎市	中山訓導
高二男	牧畜業	田邊訓導
高二女	神社	栗原訓導

議長の挨拶 (午前十時三十分)

講評研究問題協議等に入るまへ國際聯盟が滿洲に於ける認識不足等を説き地理的認識の重要性に及び本會議に充分意義あらしめられたいとの希望を陳ぶ

學校長の挨拶

去る九月縣よりの指導を受け續いて今回の指導を幸とせるも、本校日淺く設備等其他不行届なるを謝し、本日の指導に對する學校の態度立場をのべ、郷土を中心としたる地理教育と題して批評を願ひ、斯道の權威内田先生に講評を受けるを幸とすと陳ぶ。

本校地理主任の説明

教授者五名のほかに地理擔任の岡士十數名あり本日は各學年各男女に及んで授業をなす。

一、郷土地理教育について(別紙印刷物によりつゝ)

1 止むに止まれぬ實際より出發し、特設校の使命と工業都市或は全國より移住せる點等より特別なる取扱をなし、特に市を理解させ市を愛させるための教育。

2 尋常科と異なる「郷土から郷土への」の中郷土へであつて市民としての色揚であり歸結である。

3 職業指導の上から重大なる使命を有す。

二、郷土地理教育を行ふ上の方法(同前)

1 卒業期に重點を置く 印刷物九頁の説明

2 其他

四、講評 (午前十一時五分より) 大要

内田寛一先生

五十分間に五組を見たのだから全部理解し得ぬ故、教案及一部分の感じを契機として自分の考へを述べるとして大要左の如き講評あり。

1 教授法の點より

發問法 何れにも通ずる一般的方法、問題でなく明瞭な答を出し得るものたること。

前學年の知識は現時の根底となる様具體的巧妙にすること。

教科書の項目順 項目順を追ふ必要のものではない。

教材の意義 知識としてでなく中に地理的批判力、想象力、一般的理法を含めたるものである。

2 教案について

教案より見てとて瑞西の農、牧、工についてのべらる特に精巧なる工業製品は氣候(濕氣、塵埃)に關係あることをのべらる

3 地圖について

地圖の多數活用は是なるも、要は一枚なるべきものなれば、この點統一さるべきであつて、分離提示さるべきものではない。

4 郷土教育の理想

兒童が卒業後も常に郷土改善策をとり得る様な頭にしたい。

郷土には自然的惡條件もある、これを含んでの現在であるからこの點にも注目させたい。

他地方の教材も、皆郷土にとつて他山の石となるものである。與ふる知識は普遍的理法を含めたい。

五、研究問題協議 (午前十一時四十五分より) 大要

議長の説明

問題の一、四、五、六は郷土教育に關するもの、殊に一、六は類似する故に同時に説明、三、九は後に廻すとして進行の順序を述べ

一、地理科に於ける郷土教授に關する適切な方法如何(横濱市提出)

横濱市の提案理由説明

1 郷土地理教育の時期如何

2 教材如何—基礎的に何をなすか

六、郷土地理の研究及教授を如何にすべきか之に對する適切な方案如何

提出理由説明(中原校)

1 頭の養成上理解し易く短時間に樂にと云ふ研究方法を知りたい。

2 經濟上も適當なる方法、又適當なる文獻もほしい。

四、尋四以下に於ける郷土地理教育の良案如何(川崎市提出)

提出理由説明(宮前校)

1 尋四以下に於ける地理教育方案如何—各教科に表はれる地理材を如何にするか。

2 尋四以下に於ける郷土地理教育方案如何—四年以下に爲すべき郷土認識を如何。

五、要塞地帯に即せる郷土地理の研究方法如何(三浦郡提出)

説明

1 郷土地理研究の對象に制限を與へられたる特定の場合、地圖模型、不完全を以て如何に調査研究すべきか

2 法規に觸れずして如何に不完全なるものを教育上有効ならしめるか。

一—三年…學校を中心として自分の範圍 四年…自己の市町村

五、六年…範圍大(神奈川縣位)

程度

一—三年…他教科と連絡、斷片的 四年…地理的知識と郷土の理解へ、五、六年…郷土の地位自覺理解高…郷土を發展せしむるやう 以上にて午前の部を打切る—一時間休憩

六、問題協議 午後之部(午後一時十分)

議長 引續き協議を宣し郷土地理の目的如何の問題に對し講師に説明を願ふ

講師

郷土地理教育の目的が地理的基礎か愛郷心かと二つに區分して云はれたが、二項目は含むも、より大事なのは地理的知識を具體的に徹底せしめる點である、これは一般地理理解となるなり同時に、最後総合的知識とならねばならぬ、文部省が郷土研究を奨励してゐるのは、偏狭な郷土愛養成のためではない、郷土教育をすれば自然に愛郷(國)心が湧く、小地域の物知りの教育は目的でない。

意見交換

1 地理科に於ける郷土教育(女師附屬提出)

2 尋四以下郷土地理良案(郷土理解のためにも)

3 讀方科…教材を縦にとり細目を作つて行ふ、例。箱庭と郷土の臨地指導

算術科…郷土に問題をとる、道程、電車賃等

めるか。

八、郷土地理特設の可否如何

説明

前提者と同様なる故に略す

議長 以上の問題を次の如く纏めて一部或は全體として意見發表を希望

一、時期

一、材料

一、他教科との關係連絡

一、文獻、材料の經費

一、要塞地

動議

(横須賀)

協議前に郷土地理の目的を明瞭にしたい。

地理的目的のための郷土地理か、愛郷心養成のためのものか

参考案説明(中原)

郷土地理教育の三問題

縣全體の郷土地理文獻を作りたい、平易、趣味的、原據を入れて

臨時講習會を開きたい、縣下を數區分し大家の講演講習

各學校の郷土研究物を集めて發表されたい、縣教育雜誌、書物に

1の理由を纏りたる文獻なし(有りても部分的)文獻の研究力不足、經費等の點より長々説明

郷土の範圍について—兒童と共に發達する

技能科…人情、氣候、產物等、郷土化したるもの、作業

綜合科…自然の認識をさす(地理的認識)

其他…郷土帳、遠足

時機…學科の臨機…其他、休み、放課後

2 地理科に於ける郷土教育

郷土地理の研究教授の適切な方案(女師附屬提出)

1 理解の材料として…郷土をとる 2 歸郷を求むる場合…郷土に求むる 3 教授の

順序…郷土に比較 4 附加…郷土に補充材をとる

郷土の擬視…郷土個性の讀物を作る

地理的事象の觀察作業…氣溫雨量等

郷土の觀察…觀察一覽表

郊外教授…實地觀察

かくして他郷を知り長短取捨して郷土的發奮がある

川宮 本市は低學年には他教科其他餘り地理的取扱をせず

川崎は尋四から、之を行ふ五年に具へる(生活科郷土科として)

遇發的事項をとらへ地理的材を取扱ふ

郷土讀本の中に地理を含む腹案

3 要塞地帯につきて(三浦郡提出)

三浦 浦賀町で模型を作つて檢閲を受け不確實なるもの更に變更する

學校の模型作製は司令官不許可

三浦賀 軍事不關係の地圖を發表してもらつては如何當局に建議

講師の意見

地図なきとき人文關係のみの取扱でよきか、不確實なるものでも兒童の前に展開すべきか

地形を地形としてやるのが地理でない、地人相關中のプリンシプルを見付けて行くのである

海圖（海軍の方のもの）には高低等相當出てゐる。

いゝ加減のもの略圖でもよい、何もなくともよい、プリンシプルに在るのだ

議長

時間上、今までのものを纏む

目的は講師の説明にて明なり

地誌……縣誌、郡誌あり縣民讀本、市民讀本等もある、文獻も

あるが町村のものは地方の研究による外ない。

教授法に關しては後刻講師より質疑の項にてあるべし

4 地理科に於て一層愛國心を養成する適切な方法如何

（横濱市提出）

説明

横濱市 もつと手近に目に見える様に養成する方法はないか

川宮前 ビリツと頭に響く愛國心は疑はしい

郷土を知り日本世界を知つて後に來る愛國心でありたい、（兼ねてと教則にある如く）

廣い愛國心、地理眼養成後に求むる愛國心を考ふ、

地理のみで愛國心は論ぜられない他に養成すべきものあり

歴史等

5 地理科の教授を一層實生活に適切ならしむる方案如何

（都筑郡提出）

橋中原 1 理論上、人文：實生活に近つけて 2 實際上：地圖模型を活用すること

三南下浦 産業等郷土に近いもの三浦なら水産に力を入れる

6 教科書の區分に依る取扱と地理區による取扱との得失如何

（久良岐郡提出）

橋宮前 地理區の採用により系統的に理解出来る：關東地方は一地理區とすれば兒童理解易し縣別國別（外國地理）では離ればなれとなる

7 農村小學校の現状の鑑み如何にして本科教育の直觀化具體化を圖るべきか

（津久井郡提出）

諸明 農村疲勞 具體物無し、如何にすべきか

鎌附 經濟難は何處も同じ

窮餘の一策……挿繪の利用、砂箱の利用

神奈川縣統計圖につきて（都筑中川小學校提出）

教授の參考になる様他教科にも用ひられるやう兒童に即するや

5

議長 縣に考慮を求む

川崎校 希望事項が質疑の十二に混入すと申出づ

議長 其のまゝにて宜しかるべし

七、質疑解答講演 要項別紙

八、閉會 議長閉會を宣す

學校長謝辭 午後五時七分終り

内田寛一先生講演要項

質疑事項につき話す豫定でしたが、餘り數が多いから、講演の代用としてもいゝとお話ですからからひつくるめて御話したい。

（七）教科書の區分による取扱と地理區による取扱との得失如何。

教科書の地理教材の取扱が日本のは縣別で、外國のは國別であるといふ事は、全然誤解ですから訂正しておきます。今の教科書は縣別なりといふがそれは誤解であります。内國を縣別にせず外國を國別しないのである、其様に見えるのは何等かの間違ひである、但し支那は特に亞細亞においては別物であります、亞米利加のは特に加奈陀、合衆國と區別してあるがこれも同様であります、誤解のない様御願申上げます、序乍ら一言させて頂きたいのは、七の題目に教科書の區分云々とあるが、この文句からみると教科書の區分とは地理區ではないと聞える、しかるにさきほどの話の中には何處には行政區で行つた方がいゝとか、關東地方のはどうか、果して地理區は

如何に取扱はれてゐるかは、我々には解らないのである私にもそれがわからぬのである、地理區それが何であるかは意味不明瞭であるので大勢の誤解は地形を地別にしたものの氣候を氣候別にしたものとの二つに別れる。けれども私にはそれをうけとれない。又それは學理上いずれも認めることが出来ぬのである。

教科書にある區分も地理區である、教科書の區分が悪いといふのは又その人の地理區分が悪い、私の一生涯には完全なる地理區は出来まい。私の考の範圍では小にしては天、大にしては地球より外にはないと思つてゐる、すべての中のものは便宜的一部的のものである、何となれば地形即ち地理ならず、氣候即ち地理ならず、政治即ち地理ならず、えう言葉の詮索は別として、普通に言はれてゐる地理區は、言葉は悪いが内容について言ふと地形を基としてゐると言つてゐる方が多い、例へば甲府盆地又は會津盆地、これが新しい方法でもなく又唯一のものでないと思ふ、しかしこの考へは當分ぬけまい。益々深くなる、盆地と出した方がよければ盆地を出し、何々沿岸と出した方がよければ何々沿岸を取つてそれを地理區

とする、そこは大きな度量である。何しろ單純に物事を考へてはだめですよ、川一つで府と縣と分れてゐるとすると、その橋の真中で股をひろげたらどうだらう。その時は時々すわね、そう一つに片やらない方がいゝ、かたよつては駄目なんですよ、そこに愛國心もおきる、この問題は地理科の方に限定したんですから歴史科の方はぬいてあります、修身歴史國語には國民精神の涵養を麗々しく唄つてあります、勿論歴史の方面からの愛國心には異論のない處であります、修身國語にも出てくるのであります、地理の方ではかねてと言つてます、理科にはかねてもない。

それから横濱市ですが私の申上げたことでは物足らないふが、私は物足らん心算で言つたのではない。それでも物足らないとすれば地理區に缺點があるのです。それが大事であります、自然兼ねて國民精神の涵養と言つたのでありますが、そういう様なことを申上げますと角が出来から、教育の方法が徹底してゐるかどうかといふ事を別にして、教授者がこれに徹底してゐるかどうかといふことである、もう少し角が立たぬ様に言ふと、教

科の順からすると、日本と外國地理の比較がつくから、殊に世界と日本の章は時間が要るから一層國民精神涵養の話を多くしなければならぬ時間と思ふ、これは教科の順から言つたのであるが何時も比較は大切です、カールリッターの地理教授法では理論の缺點はあつたが、だれも比較無必要を反駁せず大事に考へてゐる。國情の違ひを明瞭にして外國の地理を取扱つて貰ひたい、それらは殊に外國地理―世界と日本―の場合は話が澤山あるだらう、話を前に戻しますがこの問題は感情問題である、國民精神は感情問題である、感情を感情的に教育するといふことを申しましたが、理智によつて感情を導びく行き方に注意しなければなりません、感情的に感情であつてはいけない、目的と手段を誤まらぬ様にせねばなりません、あくまでも教授者自身がその方面に徹底してゐれば言はず語らずそうであります、私自身がそうであります、學問は總て理智的であるが、學問は人格の修養に俟たねば調子はずれた事にはなりませんまいか、殊に教育者は自分の考を練ると言へば、教室で口を使はなくても自然に兒童がついて来るだらうといふ教育をしたいと

思ふ。教授者自身が未熟である。教授者自身がわが國家を本當に理解して欲しい、わが國に於ても教授者の中に有難くないことが考へられた、かういふ際であるから自分の働きをきめて教壇に立つとすれば、その目的を完成することが出来るであらう。

(九)農村小學校の現状に鑑み如何にして本科教育の直觀化具體化を圖るべきか。

これは郷土地理の目的が確立してればそんなに苦心せんでもないであります。茶葉一つはどうして出来てゐるかと注意すれば、直觀も具體にも説明が出来るのである殊にそれが農村であれば何時もそれを見てゐるわけであり

質疑事項を分類すると

- 一、地理科の全般に關する問題四、九、十七、二十二、二十七、二八、二九
- 二、同上なるも地域を限りて外國に關係した問題
- 三、郷土地理に關する問題
- 四、作業に關する問題
- 五、雜

(二四)小學校に於ける兒童學習上地理區の設定に就ては如何程の程度に依りて定むべきや

この問題は私はお察して申すのですから提案者と答が違ふかも知れぬが、これは前述の地理區に關係してゐるがこれは小學校教科書の區分よりも尙更に細かくしたらと云ふ意味と思ふのですが大體そうでせうかね―(提案者はいその通りです)―前述の如く假りに或る地方を取つてこれを更に縣である、これは地形から別けた盆地なりとして組合はせてあるので、何も地方區にかぶれてゐるわけではない、これは階段である、足場である、嚴密な意味に於ての區分ではない、故にそんな意味で輕く考へて欲しい。日本全體を打つて一丸としたものを、内面的に見、外面的に、兩面的の見方で行つてゐるものとしてはあれで結構だと思ふ、あれより細かく區分すれば日本全體から見ると益々逆行する、第一回教科書編纂の折、縣單位として嚴密に見てやつたが、あんまりその數が多くてこまるから、一地方縣單位を取つたのである、故に以前より單位單元にかぶれぬ様に注意して欲しい、兒童の程度にもよるが、若しも出来得るならば、問題は本州

四國・九州・北海道・朝鮮・樺太……と行くのであるが、本州を掴むのにはあれを一丸としては少し困難である、此頃區分にかぶれてゐるものがある様に見える、檢定試験にも見える様であるが、但し一般教材を郷土化する必要がある、その場合特に奥羽地方のこの邊はこの邊と密接な關係があるといふ時にはそれを取つていゝのであり、且又それをひろくするべきものだと思ふ、同様に郷土の場合もそうとつていゝのであります、この問題に聯關致しまして後の質問に廻しておきました、横濱の二十里以内に於ける模式的、地理區を示せと言ふが、かゝることは出来ない、前述の意味で地理區を考へてゐる者はなく、完全なる地理區をつくることは出来ない。隣りと文化現象が同じであるといふが故にこれを一元單位と見たくない、天と地球との間のものは全部これ便宜的のものである。二十里の範圍で模式的地理區を示せと言つても示し得ぬのであります、又その必要もなう。

(二) 都邑教材の取扱程度如何

編纂の主旨は前述の通りであるが特に都邑の場合、地勢産業にはその項目で何々の中心都邑なりといふ名前が出

てゐるが、交通の項にも都邑の名が出てゐる、そこに連絡を保たしめるために更に都邑といふ處に又都邑が出てゐる、同じ事を何遍も出す事は不經濟である故に、そこは簡單なる抽象的言葉で名前が出てゐるがそうではないか。早い話が都邑の項目にある都邑は前にあるのをまゝとめてゐるのか、又は新しいものがつけ加へられてゐる即ち前に言はぬことで必要なことが書いてある、それから次に郷土に即して都邑をどう取扱つて行くかといふ事にひつかゝつて行く、その都邑を地理的概念を涵養する目的で郷土を扱ふと質問の程度が極つて来る、或は時間の關係兒童の知識の程度から自然にその取扱が極つてくる。故に地方によつて或は省略し、或は詳説して差支へがない。従つて教科書に書いてある事でも、郷土から見て充分でない時は解釋を薄めて時間を省き深い時はそうしない。

(一) 尋六地理書課外地球の表面の教授を幾何様の程度にすべきや承りたし

この章は最後に置いてあるが、それを最後に全部を教へるために置いたのではなく、その表面に書いてある内容

の一部は一卷を扱ふ時にも六年生の時にも地球の表面に行く前に教授して行かねばならぬ、故に一部宛はあちらあちらにふれて行つた筈ですが、餘り多くの場所であるからその表面に關したことであるといふことを兒童に掴ませることが不可能である、前に言はぬことを附け加へる様な意味で、一部新しい教材の意味で設けられてゐる、日本地理をやつて後におくか世界地理をやつた後におくかはどちらでもいい。この章の事は附圖と引合はされたいのであつて、世界交通の附圖に時計を示してあるが、地方地方の標準時の違ひ、それが経度の關係から來てゐることを具體的に話して貰ひたい。

(二) 地理科の有機的統合如何(質疑事項)

之は年來の私の主張を云ひますが地理科の本質は前述せし如く自然を自然としてではなく人文を人文として別々に取扱ふことではない、之を關係的に見るところに地理の使命がある、只關係と云つても

$$1 + 2 = 3$$

なる式に於ては(1)と(2)との間にある(3)を見るのではなくして(1)と(2)と關係を見るのである、即ち換言すれば(1)の

中に(2)が含まれて居り(2)の中に(1)が含まれて居るのである、第三人稱の立場にあるものとして(3)を見るのではない、山ならば山を自然として切離して見るのは地理的見方とは云はれない、山と人と如何に關係して居るかを見る時に、其處に地理的使命があるのである、郷土地理を見る場合も亦同じ、若し斯かる關係的見方をするのでなかつたならば、單なる物知りに終るのである、最も重點を置くべきは以上の地理的研究なのである、今郷土と人を中心として見れば、郷土が自然に如何様に投影されてゐるかを見ようと云ふのである、従つて場所の廣狹があつても、郷土内外の觀察は同じ一般的地理的研究が出来る、以前に於ては小學校に郷土科が置いてあつた其の郷土科を生き返らせると云ふ慘めなことにならぬ様に斯く述べたのである、斯くして見方が一つのみならず其の見んとする内容が共通なのである、自然の中に人文が如何に動くかを知るのであるから、其の關係には狭い廣いに拘らず、共通な點が見られる、例へば稻栽培には雨量及

び温度が必要なのである若し雨量が過多なる時は排水せねばならぬし少ない時は人が給水せねばならぬ、此の給水排水が地方的に等しきものはない。

夫は云ふ迄もなく地形が異なるからである、原理が共通して居るから、其の特殊性を見て一般性を見ねばならぬ稍もすれば其の地方の特色を見よう見ようとして其の一般性を没却する、一般が分れば夫を地球全面に及ぼすことが出来る、一部々々を見ねば全地球に及ばないとするのは分量主義形式主義である地理的に地方々々皆異なるを見る時は二つと同じものはない、例へば都邑などの如き決して二つと同じものはない、更に空の星の如き之を風呂敷で包んだものが地理ならば風呂敷地理と云ふ此の千差の中から理法を見出すのである、自己に近い郷土から此の理法を発見するのである、つまり自然に投影される人文の性質人文の上に投影される自然の性質、之等を知れば兩者の關係は明らかになる、それは一般と特殊との二つになるが決して兩者が等しくなるものではない、例へばニューヨークや東京は忘れても教授は出来る、人間は地名でなく、辭書でもなく、統計記録でもない、産

業でも數などは絶對のものではない、行く所は「where」の點である、この判斷而してこの判斷が出来る人を作るのである、そうでないと兒童のエネルギーを徒に使ふ寧ろ不景氣の時だからばんやりさせて置いた方がよい、前述の東京、ニューヨークを忘れても教授は可能である只材料として置けばよい、この點着眼すれば有機統合となる。

(二) 小學校に於る海外發展を大いに力説せよと之を如何なる程度に説くべきや海外發展云々と云つても、一に其の發展の内容意味の問題なるが、これを移民として發展すると云ふのは無理な云ひ方である、對内的でなく對外的に狭く見れば移民的發展の意味も通るが、廣くとれば交通文化……總べてがひつかゝつて來る譯であります、その場合に何れにしても夫を力説すると云ふには内外各種の例で知らしめ内狀を知らしめねばならぬ。

今例へばシベリヤ人口は一方哩に何人、日本人人口は一方哩に何人、故に大いにシベリヤへ行く可きだと云ふだけでは私はそれを發展教育とは申さぬ、内外何れに發展しよう云ふ、正當に判斷させると云ふことに依つて分る

だらう、兒童に「うんとやらう、やらしめん、遠慮するな」と云ふ様な氣分は絶へず色々の問題で續け世界的氣分を養ふ様にす可きである。

(三) 地理書の挿繪の取扱ひに關する適切なる方案を承はりたし

挿繪は大多數が選擇した目的であります、地理的に目的がある、極小數は意義の多くないものがあります、其の小數はと申しますと、例へば或縣の特殊的希望により出して地理的に本當に意義をもつて居ないと云ふ如きである、即ち各府縣單元にとつた場合もある、その中に愛知縣その縣より只一つだけ出すのは均衡がとれないから、その束によつた所よりつまり九谷焼を出して平均を得ると云つた如きである。

挿繪製作上の御話しになるが、道路左側通行と云ふ點から説明すると左側通行違反のものもあるので向ふむきにして繪き直すこともあるし、別府温泉の男女配合は倫理的に見てよくない場合もあらうから女の頭を男の頭にして男の頭を女の頭にして挿繪として出す、夫を郷土地理に使ふ場合に郷土化する時はもつと根本的に根ほりして

用ふる場合がおこる、その爲には松の葉一本でも、その程度に應じて先きのものゝ見へない時にはとつて示してある理論と異なる變化はあるがそれは間違ではない、その繪が改正されない時は生かして使用するようになさい。

要するに家のあるなしではない、家屋税のあるなしの問題ではない、横濱の波止場を扱ふ場合は、神戸のものを

用ふる様にした流用することである。
その流用の點から云へば澤山の挿繪が利用出来るのであります、若し如何しても足りない云ふ時には御自身で揃へていただく、すべての地方の郷土教育には間に合はないから地方で補足していただく、挿繪を見るに就てもその本旨に返つていただくことを望むものである。

(三) 高二地理書自然地理、經濟地理に關する教授の限界如何

根本修正案が出来てゐないから使ひにくいと思ふが、如何なる理由か分りません、宜敷改正されるべきである、然し一層活用されたいと思ふ、限界と申すと私には一寸分らぬが如何なる意味ですか、程度の意味ですか、若し

程度の意味ならば私が先程云つたので宜しからうと思ひます。

一、尋常小學校地理書卷二、百二十七頁六行に「フランスイギリスでは鐵鑛の産額が多く」とあれど其上記の鐵産額比較表にはドイツ、フランスが多額にてイギリスが最小なり即ち兩者の合致せざるは何故なるか(質疑事項)

一體先づ鐵と鐵鑛とは異なるものであつて鐵は鐵鑛の精鍊したものであることは云ふ迄もないことだ、そも／＼フランスには石炭が缺乏して居る、例の「アルサス、ロレン」が佛蘭西のものになつて多額の鐵鑛を見るに至つたが、前のべた如く石炭がないため、之を處理する力がない、家庭には用ひるが工場に廻るには至らない、戦後はザールと云ふ炭田を向ふ十五ヶ年採掘してよい利權を得た、今考へるに鐵鑛一噸を精鍊するには石炭三噸乃至四噸を必要とするから、輸入することは非常に損なことである、又以上の比率よりして鐵産地と石炭産地と接近して居る場合は工業經濟上有利なことであると云へ、離れて居る場合は鐵鑛を石炭産地に向つて運ぶことがよいので、石炭を運ぶものがあるとすれば、地理的のんびり

やである、次に以上より大體疑ひは解けたと思ひますが英國が鐵産少ないのは思ひ違ひか何かの間違であらうから後程檢べて申し上げることにする。

(一六)英領南阿聯邦、濠洲加奈陀政府と一般政府との區別について

加奈陀政府と各獨立國政府と如何異なるか、加奈陀は國際聯盟の一成員として加盟して居るから他の純獨立國と同じ場所に立つて居る、但し聯盟の場合のみであつて英領たる氣分がのこつて居る、總督が王命により赴いて居る事より宣戰講話の構利は與へられて居ない、對外的外交的には自主的とは行かぬが非常に似てゐる、日本でも加奈陀として交際してゐるから自主的植民地として居ります。

(四)外國地圖(尋常用)に着色を施さざる理由如何

是は經濟問題です、むしろこれは金をかけないと云ふ理由からですから同情を以て見て貰ひたいのである。

(七)尋常科の外國地圖は簡略に過ぐる感あり、之が補充を如何にすべきか

地圖の簡略に過ぐる理由は、値段方面のこともあるし、

又この程度なら宜しからうと云ふので、文部省では出して居る、それが理想的なものと云ふことではない、あれだけでも圖を充分に活用すれば教授は出来る様に刷り込んであるのである。

(一〇)地理と兒童生活とを如何に交渉せしむべきか

例へば兒童の服裝に就て見るに、よの衣服とか辨當とか斯く見て行くと、其の身をだけ見ても充分骨が折れる故に先づ手近かに行つても少し廣くなると、校舎、米松、コンクリート、鐵材更に家庭の問題、市の問題、途中の社會問題、更に方面を變へて寒暖計、コンパス、方位と云ふ風に實習的に實際的に觸れて行く。

卑近な例を引けば雨風の日には歩きにくいと云ふことを知る時に雨量の多い地方の非常に交通の不便なる事が自然分つて来る、坂なれば疲れる荷物を持つて居れば尙疲れる、之等を考へても兒童生活と地理との交渉はさしたる困難なことではない。

(三〇)兒童の心理上より見たる郷土地理の系統學習期如何種々の方面から知り得る、兒童には地域的に經驗が少な

を見せて凡に行く、つまり凡から奇へ奇から凡へと云ふ行き方が行はれることもある、又同じ類より違つた類に行くこともある、實際より抽象に行くこともある。

次に範圍であるが郷土の範圍を年齢と比例して進めて行かう、と同時にそれを深めて進めて行くと云ふことに。

系統的學習、つまり廣きより狭きに、低級より高級へ、近くより遠くへ、簡單より複雑へ、是等を郷土地理にかむことがよい。

AとBとの關係でCとなつたこれはAとBとが主でと逃げて置く。

(三)當地方の地理教授の初題(五年の初め)に於て地理學理論上及兒童心身發達程度より見たる理想的指導法

日本總論から各地方に移るのでありますが、兒童は地圖を見れば分ると云ふことが載つて居ますが、それで教科書の順序でやると、例へば大日本より關東地方をやる、ところがいきなり文句を讀んでも分らない、これは四年の間に地理の基礎觀念の養成如何によつて變り異なるのであります、五年に初めて關東地方を扱ふなら。

例へば川崎には海がある、又境界を分らせる、つまり海

だ、東京灣がある箱根迄だと断片的ではあるが、こんな風に頭に入つて居た距離と關東地方を比較しながら内容に入つて行く。

又この地方が三角州だと云ふ風に、漸次入つて行くのである。

低い方の多摩の丘陵には 田圃がなく多摩の断丘は畑となつて居る、川の岸だとして畑であると云つて置きなさい、川崎でも土地が低くても畑を作つて居る所がある、そんなことが利根川にもいつかいつて来る。

(六) 要塞に於ける郷土地理の程度如何

司令部等と連絡して妥協したならばよいだらう、要する地圖を得る得られないと云ふことは問題外であつて、實地を見ることだ目で見る丈なら少しもいけないと云ふものはない、然し斯くは申すがこの地帯の研究はなか／＼難物だ仕方がない。

(四) 尋四以下に於ける郷土地理教育の良案如何(協議事項)

(五) 四年以下にて地理科を實施せる學校ありや若しあらば其の方法及び結果を知りたし (質疑事項)

四年以下の兒童の基礎觀念とは何を云ふか、そも／＼基

礎觀念の意味は何か、その解釋如何によつて自ら決する問題である、一體それは二冊の教科書を教はるための全部の基礎觀念と云ふ意味か否や、私の想定することが出来る。

さて次に作業の場合であるが、作業と申しても色々あるが、先づ地圖などを畫ぐ場合に、圖書或は手工教授と混同せぬ様、製圖手を養成せぬ様に注意していただきたい。

(一三) 移動教材を最も正確に速に知り並に時事問題取扱上特に留意すべき點如何。

時事問題の取扱ひの如き注意しませんでしたと認識不足になり易い、自分が信ずる所を正々堂々と扱ふ様に。

移動教材に扱ふ場合は、主として官報に頼つて新聞には頼るな、内務省の出版物もたしかである、雑誌の移動教材には注意せねばならない、さて前述の時事問題は材料が取りにくいいため前掲の如く、ともすると認識不足になりやすい、滿洲問題などは別としてもその信ずる所を述べればよいと思ふのである。

例へば時事問題などにて材料の取りにくい例として挙げ

平塚市教育振興會

組織とその後の成績

平塚市は大正十三年四月 東宮殿下御成婚記念として本市に呱呱の聲をあげた。當市教育振興會(昭和二年二月現在)その後師範學校に四名、湘南中學に一名、合計五名の特待生を送り得るに至りました。猶教育事業援助として兒童圖書館を創立し學用品の給與並に貸與、童話會、講演會等を開催し、益々教育の深化を計りつゝあつたが、茲にその組織の概況を掲げて一般への參考とす。

東宮殿下御成婚記念

平塚市教育振興會々則

第一條 本會ハ平塚市教育振興會ト稱シ本市教育ノ普及

上進ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二條 本會ノ目的ヲ達スルタメ左ノ事業ヲ行フ

一、兒童保護ニ關スル事項

一、校内ニ於ケル教育助成ニ關スル事項

一、小學校ヲ中心トスル社會教育ニ關スル事項

第三條 本會ハ會ノ趣旨ニ賛同スル篤志家ヲ以テ會員トス

第四條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

一、會 長 一 名

れば、「ロシヤ」でも支那でも見られる様に、その地域の構成如何によつて如何様にも見られる、「チベット」は英國の勢力範圍であり、蒙古は露國の勢力範圍ではあるが、只日本も支那もそれを認めないと云ふだけのことである如き、青海などもその通りで事實に於て支那より離れて居るのである。

「ヨーロッパシヤ」は「シベシヤ」を附屬に有つて居る、シベリヤは獨立した聯邦ではない、共和國の一つである、その中に「白ロシヤ」「ウクライナ」があるとか、「コーカシヤ聯邦」とかこんなものがよく集つて、その各聯邦が又聯邦である、斯くの如きは歴史始まつてないこととあります。

中央政府で「モスコ」は地圖の上には見えるがその實體が分らず、共產黨の首魁はロシヤ第一の有識者とは分らぬ腕の人である、要するに認識不足である、帝政時代の人を彼等は馬鹿にして居ると云ふものだ。(終)

一、副會長 一名
一、幹事 八名
一、評議員 十二名
會長ハ本會ヲ統理シ副會長ハ會長ヲ補佐シ幹事ハ會長ノ指揮ニ從ヒ庶務會計ヲ處理シ評議員ハ會務一般ニ係ル商議ニ與ルモノトス

第六條

役員ハ左ノ如ク推薦ス
一、會長 市長ヲ推薦ス
一、副會長 小學校長ヲ推薦ス
一、幹事 小學校各學年主任ヲ推薦ス
一、評議員 學務委員及小學校職員中ヨリ五選シタルモノ

第七條

本會會費ハ一ヶ月一ト口拾錢ト定メ口數ハ會員ノ任意トシ入會ノ月ヨリ向フ五ヶ年間納入スルモノトス

第八條

本會ハ毎年度豫算ニ剩餘ヲ生ジタル時ハ基本金トシテ積立ツルモノトス

第九條

本會ハ毎年一回二月中ニ評議員會ヲ開キ左ノ事項ヲ審議ス
一、事業ノ計劃及執行ニ關スル件
一、豫算決算ニ關スル件
一、諸規定ノ改廢及設定ニ關スル件
一、其他必要ナル事項

第十條 本會ハ毎年度末ニ於テ報告書ヲ調製シ會員ニ頒

ツモノトス

第十一條 本會ハ事務所ヲ小學校内ニ置ク

第十二條 本會則ハ評議員過半數ノ同意ヲ得テ變更スルコ

トヲ得

本會事業概目

最モ緊急ヲ要スルモノヨリ漸次着手セントス

一、兒童保護ニ關スル事項

- 1 貧困兒童ノ就學保護
- 2 優秀ニシテ貧困ナル兒童ノ上級學校就學費ノ貸與
- 3 兒童給食ノ施設
- 4 變質兒童ノ教育及保護機關ノ設置
- 5 學校浴場ノ設置
- 6 學校看護婦ノ備用
- 7 兒童保護ニ關スル講演會、展覽會ノ開催
- 8 幼稚園ノ設置
- 9 醫療室ノ設置

二、校内ニ於ケル教育助成ノ施設

- 1 兒童文庫ノ設置
- 2 兒童ノ自由學習及作業ニ關スル設備ノ助成
- 3 學校植物園設置ノ助成

三、學校ヲ中心トスル社會教育ノ施設

- 1 卒業生指導施設ノ援助
- 2 圖書館ノ設置
- 3 『教の園』發行援助
- 4 各種修養團體ノ振興助成
- 5 會合用活動寫真機ノ購入
- 6 思想善導生存改善其他教化運動ノ援助
- 7 女子教育振興運動
- 8 兒童博物館設置ノ助成
- 9 敬神思想涵養ニ關スル施設ノ助成
- 10 兒童善行獎勵ノ援助
- 11 修學旅行及遠足等ニ於ケル貧困兒ノ旅費補給
- 12 體育事業設備ノ助成
- 13 不幸兒ニ對スル弔祭慰靈慰安ニ關スル施設
- 14 教員ノ研究修養ニ關スル援助

昭和二年度振興會豫算

收入ノ部

- 一金壹萬壹千貳百拾壹圓九拾壹錢也
- 一金七千八百五拾壹圓九拾壹錢也
- 一金貳千九百圓也
- 一金四百八拾圓也
- 前年度繰越金
- 本年度會費
- 銀行利息

支出ノ部

- 一金貳千〇六拾圓也
- 一金八百圓也
- 一金六拾圓也
- 一金五拾圓也
- 一金百貳拾圓也
- 一金五百圓也
- 一金七拾圓也
- 一金九拾圓也
- 一金參百圓也
- 一金五拾圓也
- 一金貳拾圓也
- 學費貸與五人分
- 印刷費
- 女子修養會補助費
- 講演會費(二回)
- 兒童文庫費
- 學費品貸與費
- 音樂會(一回)
- 教員研究修養補助費
- 少年赤十字團補助費
- 雜費
- 差引殘金九千七百七拾壹圓九拾壹錢也

小學校野球試合取締令

近く取締令が發表さるゝ相であるが、之は結構のことである。元來、小學校兒童に野球をなさしむるために、教育的害悪あるに、試合をなさしめて優勝旗の爭奪を獎勵するなど、勿論その弊害の大なる者があるは論を待たない。野球熱のため優勝旗の多きを誇るとが、直ちに其校の體育向上を意味するものでない限り、安り兒童をして野球ファンたらしめ、野球選手たらしめて、身體品性等の上に面白からざる結果を生ぜしめる事を避けたいものである。此意味において野球取締令の速に實現せんことを切望して止まない

編輯後記

○新舊總裁、會長の送迎に忙殺されて編輯上多難であるところへ、舊臘より編輯子、醫藥に楽しみ、昨今、漸く元氣を回復した有様、ために發行が非常におくれました、それに一方には懸賞論文審査と、これが臨時號の編輯もあつてかた／＼申譯けない程おくれてしまひました。

○臨時號は二月號以前に發行の豫定がいろいろの原因でともかく二月號より後廻はしになつて、三月五日頃に發送することになりませう。

○最近、立派な寄稿が続々と参りますので、編輯上に張合ひが出て参りましたが、何分にも配本各校一位位ですが

ら、中には本雜誌の發行されてゐるところさへ知らない方が多くあるようです最も非常に熱心に愛讀されて、職員諸氏に紹介して下さる校長各位も多數にあることは存じてゐますが、今一層、本誌發展のため、御世話を願ひます。

○本誌掲載の記事は、全國府縣、朝鮮臺灣、滿洲地方の教育會に發送さるゝのでありまして、これによつて全國教育會と氣脈相通じ教育の向背盛衰を相互に知ることができるのであります。中には投稿者各位の研究が、各府縣に反響をなした様な例も少なくありませんので、本縣、教育の獨自性を研究に熱と力とをこめて、大いに寄稿下さらんことを希望いたします。

本誌定價

一部 金貳拾五錢

一年分前納 金貳圓五十錢

本誌廣告料

特別頁 一頁	十圓	半頁	五圓
普通頁 一頁	五圓	半頁	三圓
三ヶ月以上連續掲載		三割	引
六ヶ月以上連續掲載		五割	引

昭和七年二月二十三日印刷
昭和七年二月二十五日發行

發行所 神奈川縣教育會
橫濱市中區日本大通り縣廳教務課内

振替貯金口座東京三三三番

編輯人 吉田 清太郎
橫濱市鶴見區東寺尾町千五百八十番地

印刷人 鈴木 清五
橫濱市中區住吉町五丁目五十八番地

印刷所 橫濱活版舍
橫濱市中區住吉町五丁目五十八番地
(電話長海町〇七五六番)

廣島高等師範學校教授 佐藤熊治郎先生新著

國民教育の中心問題 其二

公民教育

國民教育の中心問題 其三

勤勞教育
郷土教育

定價各冊金壹圓五錢

送料 一冊二錢
十冊以上 一錢

徐ろに説く

著者の風格を知る人は此の國民教育の中心問題を一時の流行として終らざらしめんがために全思索を傾けて其の意義を説き使命を明かにし更に進んで教育事實への具現を闡明したところの本書を讀まれよ。

三大教育論

此の關する書物は今日の出版界に數多あれどは稀である。今著者は道の爲に犀利な考察と該博な學識とを盡して斯界に眞の意義と力とを與へようとするものである。

發行所

育英書院
東京市牛込區白銀町廿九番地
振替東京七四二番

發賣所

目黒書店
東京市神田區南甲賀町五番地
振替東京二八〇九

部

部

26/92

9